

務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 登録出願

第四條 登録出願ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ一類毎コ之ヲ作

リ意匠條例第十八條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第五條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ其旨ヲ附

記スヘシ

第六條 登録願書及ヒ明細書、圖面、見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ付シ其

順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第七條 登録願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登録ヲ受ケントスル者ハ意匠

原簿登録以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登録ノ後ニ係ルトキハ受

理セズ

第三章 明細書、圖面、雛形及ヒ見本

第八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作り圖面ニ通テ添フヘシ

一 意匠ノ名稱 二 意匠ノ性質及ヒ其意匠ヲ應用スル物品ノ種類ニ從ヒ普通ノ名稱ヲ附スル

ヲ要ス 三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱 第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ其物品

ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス 四 意匠ノ詳細ナル説明 形狀ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部

ノ形狀、模様ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ圖樣位置、色彩ノ意匠ニ付テハ色彩ヲ施スヘキ

圖樣色彩及ヒ其配色ノ位置ヲ各々圖面ニ對照シテ説明シ其意匠故實ニ基ケルトキハ故實ノ概

要ヲ記述シ併シテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス 四 專用權請求ノ

區域 意匠ヲ構成スニ欲クヘカヲナル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ意匠專用權ノ範圍ヲ明示スル爲メ意匠構成スル

新規ナル部分ヲ各別ニ記載スル場合ニ限ルヘシ

第十條 圖面ニハ意匠ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫眞ニ依テ其意匠ヲ示スコトヲ得ルトキハ寫眞ヲ附セサルモノニ限リ圖面ニ代用スルコトヲ

得

第十一條 雛形及ヒ見本ハ意匠ニ必要ナル部分ノミニ付キ之ヲ造リ其長キ幅及ヒ高サハ曲尺一

尺以内トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

但特許局長ノ認可ヲ經又ハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第十二條 登録意匠主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其意匠ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘ

シ

第十三條 雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ

差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲサ、ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘ

キ

雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セズ

第四章 審査

○意匠條例施行細則

第十四條 審査ハ意匠條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル後國貨日附ノ願書ニ從ヒ日附相同シキモノハ願書ノ願號ニ從ヒ之ニ著手スヘシ

第十五條 左ニ記載スルモノハ新規ノ意匠トナスコトヲ得ス
一 意匠條例第二條第二號ニ該當スルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
二 公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタル雖モ已ニ他人ニ於テ登録ヲ出願シ其權利ヲ放棄シタル意匠ト同一若クハ之ニ類似スルモノ

第十六條 左ニ記載スル意匠ハ新規ナルモ登録ヲ許スヘカラサルモノトス
一 皇室ノ御紋章ト全ク又ハ之ニ類似スルモノト認ムヘキ圖形ヲ使用シタル意匠

一 意匠條例第二條第二號ニ該當スル意匠ハ
三 意匠條例第八條ニ該當スル登録出願ノ意匠ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ニ相全シキモノ
四 工業上ノ物品ニ應用セザル意匠

五 形狀模様若クハ色彩ヲ主トセサル意匠
六 商品ノ目印タルニ止マル意匠

第十七條 登録ヲ拒絕スル及査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
一 願書ノ願號
二 意匠ノ名稱
三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
四 出願人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
五 登録請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
六 拒絕ノ理由
七 明細書及ヒ難形見本ニ對照シ適切ニ且明確ニ記載シ若シ第九條ニ依リ請求區域ナクニ項以上ニ分載シタルトキハ各項ニ付別々ニ其理由ヲ記載スルヲ要ス
八 再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辨明スルヲ要ス
九 査定主文
八 年月日

第十八條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ
一 願書ノ願號
二 意匠ノ名稱
三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
四 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
五 不服ノ要旨
六 事實上ノ辨論
七 明細書ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止マルヲ要ス
七 事實上主張ノ証明
八 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
九 年月日

第十九條 登録ヲ許スヘシト認ムル意匠ト同一若クハ之ニ類似スル意匠ノ登録出願ニ對シ拒絕ノ査定ヲナシタルトキハ其拒絕ノ査定確定スルマテ一方ノ登録ノ査定ヲ中止スヘシ
第二十條 特許條例施行細則第二十八條第三十二條乃至第三十四條ハ意匠ノ審査ニ關シテモ之ヲ適用ス

第五章 審判

第二十一條 特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ意匠ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス但審判請求書ニハ意匠條例第十八條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章 登録

第二十二條 意匠條例第四條ニ依リ登録ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登録料納付用紙ヲ添へ出願人ニ送付スヘシ
出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ意匠料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面ニ通テ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

●意匠條例施行細則

第二十三條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ意匠登録証ヲ送付スヘシ

前項登録料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第二十四條 意匠登録証ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ意匠原簿ノ日ヲ以テ其日附トナス

第二十五條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録ノ日附及ヒ專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第二十六條 登録意匠主第九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ應用シタル物品ヲ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第二十七條 意匠ノ專用權ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ登録意匠主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第七章 賣與、讓與、共有及ヒ書入

第二十八條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ受ケントスル者ハ第五號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作リ同條例第十八條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ意匠登録証ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登録シ契約書ニ登録済ノ証印ヲ捺シ意匠登録証ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十九條 賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ通署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ意匠登録証ヲ添ヘ差出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ意匠登録証ニ裏書ノ上之ヲ登録意匠主ニ返付スヘシ

第三十條 共有ニ屬スル意匠ノ專用權ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承諾ヲ經ルコトヲサレハ其登録ヲナサルヘシ

第八章 再下付願

第三十一條 意匠條例第十五條ニ依リ再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作リ同條例第十八條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第三十二條 第三十一條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル意匠登録証ヲ下付スヘシ

第九章 改訂願

第三十三條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録証ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

- 一 明細書ノ説明ト圖面ノ符合セサルコトヲ發見シタルトキ
 - 二 請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタルトキ
 - 三 過リ自己ノ案出ニ係レル範圍ヲ超過シテ意匠專用權ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ
- 第三十四條 改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作り意匠條例第十八條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ改訂明細書一通若クハ改訂圖面二通ヲ添ヘ現意匠登録証及ヒ附屬ノ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十二條及ヒ第二十三條ノ手續ニ依リ其旨ヲ意匠原簿ニ附記シ改訂意匠登録証ヲ送付スヘシ

第三十五條 改訂意匠登録証ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第十章 物品類別

第三十六條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 衣服

衣、裳、外套、襪衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類 頭飾、服飾、帽子

帽、簪、根掛、胸飾、腕環、指環、釦鈕、釦子等

第三類 時計及其附屬品

錶時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖及ヒ履物類

傘、杖、下駄、草履、靴等

第五類 携帶品

烟具、扇、懷中物、手提等

第六類 家具

棚、篋箱、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類 敷物

段通、油團、花藁其他各種ノ敷物

第八類 煖爐及其附屬品

火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類 點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、「ランプ」、瓦斯燈、電氣燈等

第十類 建築附屬品

障、戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類 織物及ヒ他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛織物、服紗、手巾、窓掛、卓被等

第十二類 他類ニ屬セサル編物、粗物

「レース」、打紐、飾縁等

第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス)

飲食器、手箱、香合等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉火石、瓦等モ之ニ屬ス)

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類 他類ニ屬セサル玻璃

飲食器、紋様玻璃等

●意匠條例施行細則

- 第十六類 他類ニ屬セサル七寶
花瓶、香爐、手箱、香合等
 - 第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品
貴金屬、賤金屬及合金ノ製品
 - 第十八類 他類ニ屬セサル石材製品
寶石其他石類ノ製品
 - 第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品
盆、箱、花臺、盤、籠、簾、柱聯、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等
 - 第二十類 紙及ヒ他類ニ屬セサル紙製品
紋紙、擬草紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙箋、書簡筒、文匣、一開帳等
 - 第二十一類 皮革及ヒ他類ニ屬セサル皮革製品
紋革、文匣、馬具等
 - 第二十二類 他類ニ屬セサル物品
書式用紙美濃十三行
二十五字詰
- 第一號 願出ルトキ
意匠登録願 〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕
- 一何々意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ
- 右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシ
- 本籍(及現住所)
身分、職業

年月日 案出者 氏 名 印

二人以上ナルトキハ各署名捺
印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

又ハ所在地

登録願人 會社(組合)名 社印

社(組)長又ハ重役 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第二號 願出ルトキ
意匠登録願 〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一何々意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ

右ハ亡何某ノ案出ニ係リ私相續候處別紙明細
書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ意匠條例ニ
觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度
此段相願候也

本籍(及現住所)
案出者亡何某相續者
身分、職業

●意匠條例施行細則

年月日 登録願人 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第三號 他人ノ案出ニ係ル意匠
意匠登録願 〔此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ〕

一何々意匠ノ名稱
ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシ
テ私(私共、當會社、當組合)ヨリ何某本籍ヲ
配スヘシ
託シ案出セシメタルモノ有之意匠條例ニ觸レ
サルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段
相願候也

本籍(及現住所)
身分、職業

年月日 登録願人 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第四號 意匠登録
意匠登録願

本籍(及現住所)
三百九十一

●意匠條例施行細則

身分、職業

何々(意匠ノ名稱) 氏 名

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登録シ本証附屬
明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何年間
專用權ヲ與フルモノ也

年月日 農商務大臣(爵)氏 名 印

農商務大臣(爵)氏 名 印

第五號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ
又ハ書入ノ登錄請求書

第一號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

一何々 登錄意匠ノ名

一案出者氏名

右私(私共)所有登錄意匠ヲ別紙契約書ノ通賣
與(讓與、共有又ハ書入)候間登録相成度契約
書正副二通竝ニ意匠登録証相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 登錄意匠主 氏 名 印

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓受、共有)人 氏 名 印

農商務省特許局長氏名殿

第六號 書入中ノ登錄意匠ノ費與、讓與共有
又ハ書入ノ登錄請求書

登錄意匠ノ費與、讓與共有
又ハ書入ノ登錄請求書

第一號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

一何々 登錄意匠ノ名

一案出者氏名

右私(私共)所有登錄意匠ハ何年何月何日附ノ
契約書ニ依リ何某(本籍ヲモ)書入致置候處今般
別紙契約書之通賣與(讓與、共有又ハ書入)候
間登録相成度契約書正副二通竝ニ意匠登録証
相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 登錄意匠主 氏 名 印

本籍(及現住所)

身分、職業

買受(讓受、共有)人 氏 名 印

農商務省特許局長氏名殿

第七號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ
又ハ書入ノ登錄請求書

第一號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

一何々 登錄意匠ノ名

一案出者氏名

右私(私共)所有意匠登録証何々(事由ヲ記)ニ依リ
毀損(亡失)候ニ付意匠登録証再下付相成度此
段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 登錄証主 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第八號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ
又ハ書入ノ登錄請求書

第一號 登錄意匠ノ費與、讓與共有又ハ

一何々 登錄意匠ノ名

一案出者氏名

本籍(及現住所)

身分、職業

改訂意匠登録証

第九號 改訂意匠登録証

農商務大臣(爵)氏名殿

改訂意匠登録証

第一號 改訂意匠登録証

一何々 改訂意匠ノ名

一案出者氏名

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 登錄意匠主 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第九號 改訂意匠登録証

改訂意匠登録証

第一號 改訂意匠登録証

一何々 改訂意匠ノ名

一案出者氏名

何々(意匠ノ名稱) 氏 名

意匠條例ニ據リ(何某)明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル第何號登録証「第改

訂第何號改訂登録証」ニ對シ本証附屬明細書(圖面)ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年月日 農商務大臣(爵)氏 名 印
農商務大臣(爵)氏 名 印
特許局長 氏 名 印

●商標條例 (三十一年十二月十八日勅令第八十六号)

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲グル商標ハ登録ヲ受ケルコトヲ得サルモノトス

- 一 風俗ヲ害スヘキモノ
- 二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ
- 三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ

メ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登録シ其登録証下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録証ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受ケルニ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ効ヲ失フモノトス
 一 登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セザルトキ
 二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ
 三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ
 四 登録商標主其商標ヲ使用スル商
 品ノ數量産地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ
 五 登録商標主廢滅若クハ飲損
 シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願ス
 ルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録証ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ再下付ヲ出願スル
 コトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ
 全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添へ登録証ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部
 ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
 一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ 一 商標ニ付商品一類毎ニ 金壹圓 二 登録商標ノ賣與
 讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一 商標ニ付商品一類毎ニ 金三圓 三 登録証
 ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ 金壹圓 四 登録証ノ改訂ヲ出願スルトキ 一
 商標ニ付商品一類毎ニ 金貳圓 五 審判ヲ請求スルトキ 一事件毎ニ 金七圓

第十八條 商標登録証又ハ其改訂登録証又ハ其續用登録証ヲ受ケル者ハ其商標ヲ使用スル物品一
 類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價
 ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ
 於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ滿期免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之
 ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ

拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 詐欺ノ所爲ヲ以テ登録証ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル者又
 ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ
 破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコト
 ヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
 第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

●商標條例施行細則 (二十五年十一月十八日省令第十九号)

第一章 總則

第一條 特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス
 第二條 商標ノ登録、改訂、取消及ヒ無効其他商標ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ヨリ於テ農務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ官報及ヒ商標公報ニ公告スヘシ

第二章 登録出願

第三條 登録願書ハ第一號書式ニ依リ第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作り商標條例第十七條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ
 第四條 二人以上ノ出願人連名ニテ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ証スル事由書ヲ添フヘシ

第五條 登録願書及ヒ明細書見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ
 前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第六條 登録願書ヲ差出シタル後他人ト連名ニテ登録ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ記載シタル願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ証スル事由書ヲ添ヘ商標原簿登録已前ニ之ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登録ノ後ニ係ルトキハ受理セズ

第三章 明細書見本及ヒ印版

第七條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 但明細書ニハ商標ノ見本ニ箇ヲ添ヘ一箇ハ明細書ノ首部ニ貼付シテ其貼目ニ捺印スヘシ
- 一 商標全部構造ノ説明 商標ノ見本ニ付圖樣文字ノ形狀、位置、書體、方向、裝飾、附記等ヲ説明スルヲ要ス
- 二 商標ノ要部 商標ノ見本ニ付キ特別著明ノ外觀アル部分ノ要部ヲ記載スルヲ要ス
- 三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱 第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ其商品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス
- 四 商標使用ノ方法 商標ヲ實地商品ニ使用スル方法ヲ説明スルヲ要ス

第八條 商標ノ見本ハ實際使用スヘキ商標ヲ用ユヘシ

前項ニ依リ難キトキハ模寫若クハ縮寫シタルモノヲ以テ見本トナスコトヲ得

第九條 商標ノ印版ハ版面ノ廣サ曲尺方二寸八分以内厚サ曲尺七分六厘トシ木版又ハ鉛版ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

前項ノ制限ニ依リ難キトキハ版面ノ廣サ曲尺長サ曲尺七寸以内幅五寸以内ニ於テ之ヲ造ルコトヲ得

第十條 商標ノ印版ハ見本全部ノ構造ヲ悉ク一箇ノ版面ニ彫刻シ彩色等ノ爲メ之ヲ分割セザルヲ要ス時日ヲ經テ版面ニ反リテ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスハシ

第十一條 商標印版ハ不用其屬以テ之ヲキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ

差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サ、ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ
印版ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第十二條 審査ハ商標條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ経過シタル後願書日附ノ順序ニ從ヒ日附相同シキモノハ願書ノ願號ニ從ヒ之ニ著手スヘシ
第十三條 左ニ記載スル圖形、字體又ハ其結合ハ商標ノ要部トナスヘキ特別著明ノ外觀ナキモノトス

- 一 商品ノ品位、品質若クハ効能ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ
- 二 商品ノ名稱、形狀又ハ其原料ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ
- 三 普通ニ使用セラル、地名、姓氏、人名、家號、會社名ノミヲ普通ノ書體ニ依リ記セルモノ
- 四 地紋樣ノ圖形ノミヲ以テ成ルモノ
- 五 現ニ同業者間ニ普通ニ用ヒラレ又ハ商業上慣用セラル、目印記載ノミヲ以テ成ルモノ

第十四條 左ニ記載スル商標ハ特別著明ノ要部ヲ具フルモ登録ヲ許スヘカラサルモノトス
一 皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類似スルモノト認ムル商標
二 商標條例第二條第一號第二號又ハ第三號ニ該當スル商標
三 商標條例第八條ニ該當スル登録出願ノ商標ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同シキモノ
第十五條 同一商品ニ使用セントスル二箇以上ノ商標コシテ左ニ記載スル場合ノ一ニ該當スル

- トキハ互ニ類似シタルモノトス
- 一 離隔上ノ觀察ニ於テ差異ナキトキ
- 二 商標上ヨリ生スヘキ自然ノ稱呼同一ナルカ又ハ相紛ハシキトキ

第十六條 登録ヲ拒絶スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
一 願書ノ願號
二 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱
三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
四 商標全體ノ關係、再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
五 拒絶ノ理由、明細書及ヒ見本ニ對照シ適切ニ且明確ニ記載シ再査定ニ係ルトキハ不服理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辯明スルヲ要ス
六 査定主文
七 年月日
第十七條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

- 一 願書ノ願號
- 二 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 不服ノ要旨
- 五 事實上ノ辯論
- 六 事實上主張ノ證明
- 七 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 八 年月日

第十八條 登録ヲ許スヘシト認ムル商標ト同一若クハ之ニ類似スル商標ノ登録出願ニ對シ拒絶ノ査定ヲナシタルトキハ其拒絶ノ査定確定スルマテ一方ノ登録ノ査定ヲ中止スヘシ
第十九條 特許條例施行細則第三十二條乃至第三十四條ハ商標ノ審査ニ關シテモ之ヲ適用ス

第五章 審判

第二十條 特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ商標ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス
但審判請求書ニハ商標條例第十七條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章 登録

第二十一條 商標條例第四條ニ依リ登録ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登録料納付用紙ヲ添へ出願人ニ送付スヘシ
出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書ニ通及ヒ商標ノ印版一箇ヲ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

第二十二條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ商標登録証ヲ送付スヘシ
前項登録料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其已後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第二十三條 商標登録証ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附トナス
第二十四條 商標ノ專用權ヲ相續シタルトキハ其相續人ヨリ登録商標主其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキ氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキノ本人ヨリ速カニ其旨ヲ届出ツヘシ
第七章 賣與、讓與及ヒ共有
第二十五條 商標條例第十二條ニ依リ賣與（讓與又ハ共有ノ登録ヲ受ケントスル者ハ第三號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り同條例第十七條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約

書正副二通及ヒ商標登録証ヲ添へテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登録シ契約書ニ登録料ノ証印ヲ捺シ商標登録証ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十六條 共有ノ登録ヲ受ケタルモノニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ商標登録証ヲ添へテ差出スヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ商標登録証ニ裏書ノ上之ヲ登録商標主ニ返付スヘシ

第二十七條 共有者中ノ一人若クハ數人其商標ノ專用權ヲ他ノ共有者ニ賣與又ハ讓與セントスルトキハ第二十五條第一項ノ手續ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ第二十五條第二項ノ手續ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第八章 續用登録願及ヒ再下付願

第二十八條 商標條例第十四條ニ依ル續用登録願書ハ第四號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十七條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ登録有効期限内ニ差出スヘシ

第二十九條 商標條例第十五條ニ依ル再下付願書ハ第五號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十七條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第三十條 第二十九條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル商標登録証ヲ下付スヘシ

第九章 改訂願

●商標條例施行細則

第三十一條 商標條例第十六條ニ依ル商標登録証ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

- 一 明細書ノ説明ト商標見本ト符合セサルコトヲ發見シタルトキ
- 二 明細書ニ掲ケタル商標見本ノ構造ヲ變更セシメテ商標要部ノ範圍ヲ擴メ若クハ削減シ又ハ他ノ部分ト交換スルノ必要アルコトヲ發見シタルトキ
- 三 商品ノ指定第三十四條ノ商品類別ニ違ヒタルコトヲ發見シタルトキ

第三十二條 改訂願書ハ第六號書式ニ從ヒテ之ヲ作り商標條例第十七條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書一通若クハ改訂見本二箇ヲ添へ現商標登録証及ヒ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十一條及ヒ第二十二條ノ手續ニ依リ其旨ヲ商標原簿ニ附記シ改訂商標登録証ヲ送付スヘシ

第三十三條 改訂商標登録証ハ第七號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第十章 商品類別

第三十四條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 化學品及ヒ藥劑

酸類、鹽類、「アルカリ」、漂白粉、澱粉、膠、燐、石鹼、酒精、「グリセリン」、「キナニン」、「モルヒネ」、「丁度劑」、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類 染料及ヒ顔料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黃等

第三類 塗料

漆、假漆、油漆、澱、靛墨等

第四類 香料及ヒ燻料

香油、髮膏、香袋、香水、炷香、線香、煉香等

第五類 金屬及ヒ其半加工品

銃鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類 金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第七類 利器及尖刃器

鎌、鋸、鑿、錐、鋸、針、釘、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、齧齧等

第八類 貴金屬及ヒ其製品（「アルミニウム」金、「ニッケル」銀ノ製品モ之ニ屬ス）

黃金、銀、四分一、紫銅其他貴金屬ノ合金鑲品、彫鏤品、「モール」等

第九類 珠玉及ヒ其彫鏤品

珊瑚、珠、眞珠、珊瑚、水晶、黃玉、碧玉及ヒ其模造品等

第十類 礦物類（但石炭ハ第五十一類ニ屬ス）

第十一類 石材及ヒ其製品並彫鏤品

●商標條例施行細則

- 版石、大理石、砥石、石器及其模造品等
- 第十二類 漆喰類
- 漆喰、「セメント」、石膏等
- 第十三類 陶磁器類
- 陶磁器、土器、埴埴、瓦、煉化石等
- 第十四類 七寶燒
- 第十五類 玻璃及其製品
- 玻璃壺、玻璃管、彩色玻璃等
- 第十六類 機械類
- 紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸製造機械、汽機、汽罐等
- 第十七類 農工器具
- 犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘板、鐵錘、墨繩等
- 第十八類 學術上ノ器械
- 理化學、醫術及ヒ測量等ノ器械
- 第十九類 度、量、權衡
- 第二十類 運送用ノ車類
- 荷車、馬車、人力車、自轉車等
- 第二十一類 樂器

琴、三味線、胡弓、笛等

- 第二十二類 時計及其附屬品
- 第二十三類 銃砲、彈丸、火藥、烟火等
- 第二十四類 繭種紙、繭
- 第二十五類 真綿及ヒ木綿綿
- 第二十六類 生絲、絹絲及ヒ天鵲絲、(琴絲)
- 第二十七類 棉絲
- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木棉織物、金絲、(銀絲毛之ニ屬ス)
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 絹、綿、麻、毛外ノ織物及ヒ交織物
- 第三十五類 絲類ノ編物及ヒ組物
- 「レース」、打紐、網等
- 第三十六類 被服
- 衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安

●商標條例施行細則

- 第三十七類 釀造物及飲料
酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、水等
- 第三十八類 砂糖類
砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 第三十九類 菓子及麵包類
干菓子、蒸菓子、掛ヶ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等
- 第四十類 茶及咖啡類
- 第四十一類 烟草類
- 第四十二類 穀、菜、種子及菓物類
五穀、蔬菜、蕈、菓實、種子、根球、麵種モヤシ等
- 第四十三類 挽粉、澱粉及其製品
挽粉、澱粉、麪類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等
- 第四十四類 味噌、醬物及漬物類
- 第四十五類 貯藏食品
罐節、錫、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、鹹製品等
- 第四十六類 牛乳製品
凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
- 第四十七類 烟具及袋物
烟管、烟袋、烟管筒、懷中物等
- 第四十八類 紙及其製品
紙、色紙、短冊、擬草紙、壁紙、油紙、澱紙、書簡筒、張文匣、一圓張、元結等
- 第四十九類 筆、墨類
筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等
- 第五十類 皮革及其製品
馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓弦等
- 第五十一類 燃料類
炭、附木、摺付木、燈心等
- 第五十二類 油、蠟類
油、蠟、燭燭、脂肪等
- 第五十三類 肥料
干鱗、鮭粕、油粕、骨粉等
- 第五十四類 木竹材
第五十五類 木、竹、籐製品及其漆塗、蒔繪品類
指物、挽物、曲物、桶類、織物、粗物等
- 第五十六類 角、甲、牙類、製品
- 第五十七類 藁及草ノ製品

●商標條例施行細則

四百十二

年月日 登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第五號 商標登錄證ノ再下

商標登錄證再下付願

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證何々ニ依リ毀損(亡失)候ニ付商標登錄證再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第六號 商標登錄證ノ改訂

商標登錄證改訂願

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證附屬ノ明細書(見本)中何々ニ依リ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙ノ通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 登錄商標主 氏 名 印

農商務大臣(爵)氏名殿

第七號 商標登錄證ノ改訂

商標登錄證改訂願

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證(何某)明治何年何月何日登錄ナシナル第何號商標登錄證(第何號)改訂登錄證ニ對シ本証附屬明細書(見本)ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

本籍(及現住所)

身分、職業

年月日 農商務大臣(爵)氏 名 印

農商務大臣(爵)氏 名 印

特許願書

農商務大臣(爵)氏 名 印

明治二十五年十二月一日以後出願ニ係ル特許願書、意匠登錄願書、商標登錄願書ノ明細書、圖面ノ認方(廿五年十二月一日以前出願ノ特許願書、意匠登錄願書、商標登錄願書ニ係ルハキ明細書圖面ハ左ノ標準ニ依リ認ムヘシ)

- 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左二分級料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ
- 二 明細書ニハ特許條例施行細則第十八條、意匠條例施行細則第八條、商標條例施行細則第七條ノ諸項目ヲ順次各別項ト爲シテ記載スヘシ
- 三 明細書中圖面ト對照シテ説明スルトキハ單ニ符号ノミヲ以テ部分ヲ指示スヘカラス必ス其符号ノ上ニ指示スヘキ部分ノ適當ナル名稱ヲ付スルヲ要ス
- 四 商標登錄願書ニ添フヘキ明細書ニハ商標ノ色彩ニ係ル説明ヲ爲スヲ要セス
- 五 圖面ハ糝水引ノ純白ナル美濃紙薄葉紙等ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ堅曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ於テ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ樣濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ調製スヘシ
- 但意匠圖面中圖樣大ニシテ縮少スルトキハ之カ意匠ヲ精密ニ示シ難キ場合ニアリテハ本項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
- 六 圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ堅ニ用ユルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ堅横混合シテ用ユヘカラス
- 七 圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス
- 八 發明、意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス
- 九 圖面ハ色彩ニ係ルモノ、外一切著色スルヲ要セス
- 十 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖、第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用ユヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニスヘシ
- 十一 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル

●商標條例施行細則

四百十三

場合ニハ其部分ヨリ少クシ離シテ符號ヲ記シ極小ノ直線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ
 陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施スルハ其部分タケ陰ヲ施サ
 スシテ符號ヲ記スヘシ 十二 裁斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ
 引クヘシ又裁斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向差ヒタル斜線ヲ用ユヘシ 十三 凹凸ノ
 部分ヲ明瞭ナラシムル爲メ圖面ニ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒテ簡明ニ畫クヘシ射
 影ハ成ルヘク施スヘカラス 十四 活版ニ應用スヘキ文字及記號ニ係ル意匠ノ圖面ヲ調製
 スルニハ左ノ項目ニ依ルヘシ 一、 片假名、平假名、數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限
 アル文字ニ係ル意匠ナルトキハ其各字ノ全體ヲ示スヘシ 二、 漢字ノ如キ數ニ定限ナキ
 文字ニ係ル意匠ナルトキハ其各字ノ全體ヲ示スヘシ唯之ヲ構成スル部分即チ偏、旁、冠
 構等ノ各種類ヲ舉示スヘシ若シ偏、旁等ノ一部分ヲ以テ示シ難キ文字全體ニ係ル意匠ナルト
 キハ其全般ヲ推知スルニ足ルヘキ若干ノ字例ニ依テ之ヲ示スヘシ 三、 文字ノ全體又ハ
 偏、旁等ニ關セズ唯其點畫ニ屬スル形狀ニ係ル意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀並ニ之ヲ以テ
 組成セル文字ノ全體數種ヲ示スヘシ

●商標ノ專用權ニ變更ヲ生シタル件届出ノ事(二十六年九月十一日 省告示第十号)

一 商標ノ專用權ヲ相續又ハ賣與讓與シ若クハ共有ト爲シタルニ由リ商標ノ附記ニ變更ヲ生シタ
 ルトキハ其附記ニ訂正ヲ加ヘタル商標見本五葉ヲ特許局ヘ差出スヘシ
 會社又ハ組合ニシテ名稱位置等ニ變更ヲ生シタルニ由リ商標ノ附記ニ訂正ヲ加フル場合モ前
 項ノ例ニ依リ見本ヲ差出スルヲ要ス

一 商標ノ專用權ヲ有スル會社組合ノ位置名稱ノ變更及ヒ社長等ノ更替並ニ是等ノ改印ヲ爲シタ
 ルトキハ商標條例施行細則第二十四條ニ據リ其旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ
 但シ改印ノ届書ニハ印鑑ヲ添フルヲ要ス

●古物商取締法 (二十八年三月二日法律第十三号)

- 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ
 賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ
- 第二條 古物商ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出
 ン
- 第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケントスルトキハ更
 ニ其地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
 管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ
 非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官
 衙公署ノ公賣品及賣業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 古物ノ市場、行商、露店及雜賣
 二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換
 第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セントスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス
 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ買賣シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ
 第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ
 第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解除シコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ依ルトキハ營業者ヨリシタルト否トテ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レザルトキハ徵收シタル日ヨリ三箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

- 二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第十五條ニ違犯シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十二條 營業上ニ附テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物商取締法細則 (廿八年七月二十六日內務省令第八號)

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣東京府ヲ除ク知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長島司、

地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止

ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及

此ノ細則ヲ遵守スヘシ

吳服商 金物商 袋物商 小間物商 籠甲商 時計商 飾商 書籍商

其他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルルハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖移轉營業者及後見人ノ族籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相続人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ

但シ死亡者非戸主ナルハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ

之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交換セントスル場合ニ於テハ其品目

届出ハ運搬又ハ交換ノ行爲ニ先ツヘシ又相続人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相続ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ糶賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條 古物商ハ露店途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ヨタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

●質屋取締法

(二十八年三月十日法律第十四号)

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

應業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質屋主ニ於テ其ノ物品ニ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ証人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及ヒ質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ証トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

一 利子割合 一 流質期限 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方 一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ル

コトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金貳拾五錢以下ハ一箇月壹錢、壹圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、拾圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ノ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨償シテ其質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贖物ニシテ特ニ贓別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置証書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若シ被害者知レザルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者
- 二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第三項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質屋契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●質屋取締法細則 (二十八年七月二十六日內務省令第九号)

第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監北海道廳長官府縣東京府ヲ除ク知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長島司地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設ケルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ住籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見人ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相続人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ

但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前三條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相続人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相続ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質屋主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額質物ノ種類員數番號年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

●船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メタル時ハ該廳ニ願出検査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フ可シ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
西洋形蒸氣船 百噸ニ付 一年金拾五圓
同 風帆船 同 同 金拾圓

日本形積石五十石以上 百石ニ付 同 金貳圓
同 積石五十石未満 同 同 金貳圓

解漁船小廻船積石ニ拘ル 長自由乘 三間迄ハ一年金三拾錢
但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船

但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五十石未満ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタルモノハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ
倉庫船 水田ノ耕作ニ用フル船 水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船 橋梁ニ換ヘ渡場ノニ用フル船 船橋ノ組成ニ用フル船 航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船、ハツテラノ類ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時刻期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ通署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

●船稅徵收手續

船稅徵收手續左ノ通相定メ(二十四年)一月一日ヨリ施行ス

但明治十七年^{六月}當省第三十八號^月同日ヨリ廢止ス

一船籍證書ヲ受有スル船舶ハ其證書記載ノ登簿噸數又ハ積石數ヲ鑑札ニ記載シ其噸石數ニ據リ

徵稅スヘシ其船籍證書ヲ受有セサルモノハ測度證書ニ據ルヘシ

一測度ニ據リ在來徵稅ノ噸石數ニ増減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル税金ヲ徵收スヘシ

●車稅規則

明治六年^月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年^{二月}第二十一號布告解漁船并ニ海川小碇船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

第一則

車馬二正立以上 一ケ年税金三圓 馬車一正立 一ケ年税金貳圓 荷積馬車 一ケ年税金壹圓 人力車二人乘 一ケ年税金貳圓 人力車一人乘 一ケ年税金壹圓 牛車 一ケ年税金壹圓 荷積大七六八車 一ケ年税金壹圓 荷積中小車但大六以下 一ケ年税金五拾錢

第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事(二十二年大藏省令第七號ヲ以テ市町村ニ於テハ郡長ニ申出ヘキコトトス)

第三則 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分

六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ牛ケ年分宛區戸長へ取集メ其管轄處へ可相納事
但前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管轄處へ可相納事

第五則 荷積車等ノ内耕作ニ途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事
附則

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七八大八車荷積中小車ハ當分ノ
内税金ヲ免除ス

◎人力車一人乘二人乘ノ區別

八年第二十七號布告車稅規則中人力車ノ儀横巾内法曲尺二尺未滿ヲ以テ一人乗トシ右以上ヲ以
テ二人乗ト相定區別可致此旨相達候事

◎荷積車大七車中小車ノ區別

車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷蓋全ク荷物ヲ積ニテ場所ノ縦横相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未
滿ヲ以テ中小車以下ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

◎耕作ニ途ニ用フル車類車稅免除ノ檢印燒記方

本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作ニ途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢印免除
ヲ爲取締一車毎ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得此旨相達候事

◎船車賣藥牛馬賣買等ノ税金納期ヲ定ム

船車賣藥牛馬賣買等ノ税金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事

但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ

一 船船等賣藥、牛馬賣買等ハ税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限其
管轄處へ可相納事

◎牛馬賣買免稅規則

牛馬賣買渡世人之者免稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候
條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御登議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定
候條是迄相渡候免稅鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨此段可申立候其
餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

規 則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬登鼻綱ニ付免稅鑑札壹枚相渡可申事
但登鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内二枚ヲ所持スル者
ハ十四匹ニ限リハシ其餘准之可申事

第二條 免稅鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢棄ノ者七月以後ハ
全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

大 藏 省

●車稅規則

四百三十一

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ケ年税金壹圓上納致可事

第五條 免許鑑札燒印並押切列ハ、雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ニ相渡可申事

第六條 但鑑札相渡次第稼人其國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ニ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相取ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ニ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二倍美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並科料金ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行候ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅五位ノ科料可申付事

右之通規則相定候事

壬申十月

大藏省

●牛馬賣買鑑札規則中追加ス

明治七年六月第六十七號ヲ以テ布告候(酒造稅油商船並生糸)牛馬賣買鑑札規則追加ノ儀相廢シ更

ニ(商船生糸)牛馬賣買鑑札規則中左ノ通追加候條此旨布告候事 (酒造稅油商船並生糸ハ十六年十一月三號行方ニ依リ酒造稅生糸ハ稅則廢止ニ付酒造稅ハ)

(商船)

(生糸)

牛馬

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳ニ届出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢可相納事

◎牛馬賣買鑑札書替下渡ノ節取計方

牛馬賣買鑑札改名代替轉居等ニテ鑑札書替下渡候節ハ八年十一月第一百六十六號公布ニ準據シ可取計此旨相達候事

●酒造稅法

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造稅一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若シ資産ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

一 酒造石税ノ滞納處分ヲ受ケ滿三年ヲ経過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石税四分ノ一ニ滿テサル者

保証物ノ種類及保証人ニ要スル條件ハ大蔵大臣之ヲ定ム

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類ニシテ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒獨酒其他釀造酒
シタルモノナシ

二類 蒸溜酒 燒酎酒類再溜酒類其他
蒸溜シタルモノナシ

三類 再製酒 蒸溜味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノナシ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造場一箇所ニ付 一三拾圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラザレハ免許セス

清酒 百石

濁酒 十石

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシトキハ其管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受タル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ

第一期 四月十五日限

第二期 十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 八月十五日限

第四期 二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

十一月十五日限

第五期 六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

一月十五日限

前納額ノ殘數

●酒造税法

四百三十五

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受テ現石數ニ付納稅スヘシ
但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ノ廢シ尙ホ存セル

酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 營業免許後不動產ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル
場合ニ於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ
前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済酒類ニ係
ル造石稅ヲ納メシムヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖トモ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造

石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ亦其造石稅ハ總石
數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條第一類ノ酒類ニ
類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時ハ造石稅ハ
其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ
變製ノ石數ニ就キ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受
クヘシ

第十六條 検査済酒類納稅以前ニ於テ廢敗シ若ハ天災其他避クヘカヲサル事故ニ依リ廢業ニ屬
シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ検査ヲ受ケ其造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ニ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハヌ其仕込タル酒もト其他仕
込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ヘ使用以前管廳ヘ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ届出
ツ可シ

造酒著手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スコトヲ許サ
ス

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニ非ス

第二十二條 他ノ受托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造ス
爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

検査済済ノ酒類ヘ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

二十五條 造酒^樽器^器械ニハ管^管廳主任官^員ノ封^封緘ヲ受^ケ置^キ使^用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封^封緘ヲ毀^毀損シタルトキハ直チニ管^管廳ヘ届出テ再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管^管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造^リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共稼^稼管^管廳ヘ届出ヘシ
但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類竝ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒造石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒造ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十三條 檢査未済ノ酒造ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不^不論罪及ヒ減^減輕再犯加重^加重^重數罪俱發ノ例ヲ用^ルズ但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係^レル此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

●酒造稅則附則

四百四十

●酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ該稅則ニ準據ス
 酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒造ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ
 第一項ニ從ヒ酒造ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス
 犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス
 第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●酒造稅則附則

第一條 自家用材ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ
 第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテテ以テ一期トス
 第三條 自家用材ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス
 第四條 左ニ掲クル者ハ自家用材ノ酒造ヲ製造スルヲ得ス
 一 酒造受知小賣營業者
 一 飲食店又ハ旅館屋營業者
 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者
 第五條 自家用材ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルヲ得ス
 第六條 自家用材ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用材ノ爲メ製造シタル酒造ハ之ヲ賣捌クヲ得ス
 第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス
 第九條 自家用材ノ酒造ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ
 第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒造及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス
 第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒造ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒造ヲ製造セザル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ニ同シ
 第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

●酒造稅則施行細則

(二十三年八月廿日大藏省令第廿号)

第一條 稅則第一條一項ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其ノ願書ニ造石見込高ヲ記シ其酒造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數トニ拘ハラヌ總テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ檢査済ノ酒造又ハ酒造用諸機械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ酒造場ノ附屬ト爲スコトヲ得
 稅則第一條二項ニ依リ保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ願出ノ際保證物又ハ保證人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
 免許ヲ受ケタル後造石見込高ヲ增加シ又ハ土地建物等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘ

免許ヲ受ケタル者コシテ翌期ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ其年十月一日迄ニ願書ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ差出シ免許ノ証印ヲ受クヘシ

稅則第一條二項一二ノ年數ハ處對ハ宣告ノ日滯納處分ハ完結ノ日ヨリ免許願出ノ日迄滿三年トス

第二條 酒造場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ
他ノ管轄地ヘ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第三條 免許鑑札ヲ賣買讓與セントスルトキハ雙方連署ノ書面ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ若シ他管廳ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 稅則第一條二項ニ依リ徵スヘキ保證物ノ種類左ノ如シ
有利公債証券 大藏省証券 日本銀行株券 正金銀行株券 國立銀行株券 政
府ノ保護ヲ受ケル會社株券債券 府縣郡市町村ノ公債証券 土地建物

第五條 前條保證物ノ保證價格ハ左ノ割合ニ依テ定ム
一 公債証券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ依ル 二 大藏省証券ハ其券面ノ金額ニ依ル 三 銀行會社株券債券府縣郡市町村ノ公債証券ハ價格十分ノ八 四 土地建物ハ價格十分ノ六

第六條 稅則第一條二項三ノ所有不動産ノ價格及ヒ保證物トシテ差出スヘキ株券債券公債証券
不動産ノ價格ハ各地現賣買ノ價格ヲ標準トシテ地方長官之ヲ定ム
前項ニ依リ定メタル價格ニ付異議アルトキハ地方廳及ヒ其所有者ヨリ各二名ノ評價人ヲ撰ミ價格評定セシメ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム

第七條 稅則第一條二項ニ依リ立ル所ノ保證人ハ不動産ヲ有シ又ハ所得稅ヲ納ムル丁年以上ノ男子ニシテ地方長官ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第八條 保證物ハ土地建物ヲ除クノ外管廳ニ於テ保管スヘシ

第九條 當初ノ造石見込高ニ依リ其營業ヲ免許シタルノ後更ニ増石スルトキハ之ニ相當スル保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十條 保證ヲ徵セスシテ營業ヲ許可シタルモノ其造石數ヲ増加シタルタメ其所有不動産價格造石稅四分ノ一ヲ下リタルトキハ保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十一條 稅則第十一條營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當ト爲ス場合ニ於テハ其不動産ノ位置番號名稱種類段別又ハ坪數及土地臺帳記入ノ地價地租ヲ詳記シテ管廳ニ届出ツヘシ

第十二條 酒造用容器ハ左ニ掲ムル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號烙印及石數ノ記載ヲ受クヘシ

酒造桶類丈量法
口徑 口頭ヨリ一寸全深四分
下リタル箇所 第一胴徑 口底徑 第三胴徑 第二胴徑ヨリ全深四分
分ノ一ニ下リタル箇所 底徑 底板面
レモ内側リニテ縱横①圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等執シモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

(一) 第二胴徑以上ノ分

口徑ト第一胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

第一胴徑ト第二胴徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

口徑ト第二胴徑ノ和ト第一胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ナ一位トスヲ乘シ之ヲ四コテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下捨切ツヘシ

(二) 第二胴徑以下ノ分

第二胴徑ト第三胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス

第三胴徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス

第二胴徑ト底徑ノ和ト第三胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四三八四四ヲ乘シ之ヲ四コテ除シ其容量ヲ得ル

右(一)(二)ヲ合算シ滿量補ノ石數ヲ得ル

第十三條 酒造用容器ヲ修繕シタルトキハ使用以前管應ノ検査ヲ受クルモノトス

第十四條 甕類及ヒ胴張補其他第十一條ノ丈量法及算則ニ依リ質量ヲ得難シト認ムルモノハ便

宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ測定スヘシ

第十五條 稅則第十條ノ検査ヲ受クヘキ酒類ハ其容器ノ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容積ノ既クヘシ其入

入實第一胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス 此底徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ

現在ノ石數ヲ得ル

入實第一胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トノ和ヲ自乗シ甲トス 此口徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トノ和ヲ自乗シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積面ヨリ第二胴徑ヲ入實深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル

第二胴徑以下ノ石數ヲ加ヘ現在ノ石數ヲ得ル

入實第三胴徑以上若クハ以下ニアルトキハ前項ニ準據スヘシ

第十六條 稅則第十七條ニ依リ酒類製セントスルトキハ更ニ其製製スヘキ酒類ノ種目及石數

ヲ届出テ製成ノ上尙検査ヲ受クルモノトス

●酒造稅則施行細則

四百四十六

第十七條 檢査未済ノ酒類腐敗其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄租稅檢査員派出所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第十八條 稅則第十八條造石稅免除酒類ハ一期中製造石高ヲ翌期十月中ニ届出クヘシ

第十九條 檢査濟酒類及古酒買入酒等ヲ粕澆ニスルトキハ其時々届出檢査ヲ受ケ尙製成ノ上檢査ヲ受クルモノトス但此ノ場合ニ於テ増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第二十條 濁酒白酒ハ醱ノ儘其他ノ酒類ハ製成ノ上（九月二十五日大藏省令）（第二十三號ヲ以テ改正）
檢査ヲ受クルモノトス

第二十一條 造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢棄スルモノ、檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第二十二條 營業人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ
酒造原品受拂帳
仕込帳
酒粕目方帳
蒸溜帳
變製酒類原品受拂帳
酒類倉出帳
酒類賣上帳
酒類買入帳

第二十三條 此細則ニ關スル帳簿記入方其他書式等ノ手續ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第二十四條 仕込桶及稅則第十條ノ檢査ヲ受クヘキ酒類ヲ容ル、桶類ヲ除クノ外ハ管廳ノ都合ニ依リ漸次第十二條ニ據リ改測スルコトヲ得但新調修繕ニ係ル分ハ其時々第十二條ニ據リ改測スヘシ

第二十五條 第十五條ノ場合ニ於テ舊丈量ノ容器ニ係ルモノハ左ノ算則ニ依ルヘシ
入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス
此徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假底ノ底徑トス
假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

●酒稅附屬法
勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ届書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ
第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳ヘ届出ヘシ
第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ
第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セントキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ替換ヲ請フヘシ

●自家用料酒類製造者心得

第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル
第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●輸出酒類稅規則
朕輸出酒類稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●輸出酒類稅規則

第一條 内國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出稅港關ノ檢査ヲ受ケ

●酒稅附屬法

四百四十七

置輸入港稅關ヲ通過シタル証憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得
但其証憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サル者ハ其効力ヲ失フヘシ

第二條 造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚
ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ

第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

●輸出酒類戻稅規則施行細則

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通相定ム

●輸出酒類戻稅規則施行細則

第一條 酒類ヲ外國ニ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名
等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査済ノ証明書ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ証明書ニ必ス在留本邦
領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條 外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器
ノ箇數ト當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現
品ノ檢査ヲ受ケ造石稅金ヲ還納スヘシ

第四條 造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

●東京府區内清酒輸入規則

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●東京府區内清酒輸入規則

第一條 東京府區内ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受クヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區内ニ清酒ヲ輸入スルコトヲ得
ス

第三條 免許ヲ受ケスレテ清酒ヲ輸入シタルトキハ其清酒及容器ヲ沒收シ既ニ之ヲ發消シ又ハ
賣捌タルモノハ其代金ヲ追徵ス

第四條 清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第三條第四項ノ稅金ヲ逋脱シタルトキハ其稅金ニ
相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 此規則ニ依テ沒收シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモノトス

第六條 清酒ヲ再輸出スルトキハ其特別稅下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法ハ府縣會規則ニ依
リ東京府知事東京府區部會ニ付シテ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 東京府知事ハ此規則實行ノ責ニ任ス

第八條 此規則ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

●酒造稅則釀造營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏處分方

酒造稅則釀造營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思
料タルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ証
票ヲ携帯スヘシ

●酒類營業稅法 (二十六年四月二十一日法律第十七號)

第一條 酒精(アルコール)又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス
甲種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者
乙種營業人

本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者
第三條 本法ノ營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ヲ現金
又ハ國債証券ヲ以テ供託スヘシ

第四條 本法ノ税金ヲ滞納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ税金ニ充ツ仍不足スルト
キハ明治二十二年法律第三十二號國稅滯納處分法ニ據テ處分スヘシ

第五條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ
甲種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人

酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取り消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ

第六條 營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其ノ際營業稅ヲ納ムヘシ

前項ノ期限内ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其ノ税金ヲ納メテ後之ヲ
販賣スヘシ

第七條 第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者(造酒家ヲ除ク)ハ勅令ヲ以テ定ムル所ノ
規定ニ從ヒ其ノ營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條 營業者ハ帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ
前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコトアルヘ
シ

第十條 無免許ニテ營業シタル者ハ其ノ現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ
罰金ニ處ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徴ス

第十一條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若ハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓
以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用サス但シ
刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス
●醫藥用及工業用酒精營業稅免除ノ件 (二十六年五月三十一日法律第五十八號)

●醫藥用及工業用酒精營業稅免除ノ件

- 第一條 酒精營業稅法第七條ノ醫藥用トハ日本藥局方ニ據リ製藥用ニ供スルモノ又ハ醫術用ニ供スルモノヲ云ヒ工業用トハ工藝製作ノ用ニ供スルモノヲ云フ
- 第二條 醫藥用ノ爲メ酒精ヲ販賣又ハ使用スル者ニシテ營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スル者ハ豫メ管廳ニ申出テ認許ヲ受ケヘシ
- 第三條 前條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫藥用外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス
- 第四條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ハ醫師ノ證明書ヲ所持スル自用者、醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ノ外ニ酒精ヲ販賣又ハ讓與スルコトヲ得
- 第五條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師若クハ藥劑師、藥種商及製藥者ニ於テ其酒精ヲ自用者ニ賣渡シ又ハ讓渡シ得ルハ其自ラ診療スル患者若クハ醫師ノ證明書ヲ有スル者ナル場合ニ限ル
- 第六條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ハ其酒精ヲ醫藥用外ニ使用スルコトヲ得ス
- 第七條 第二條ノ認許ヲ受ケタル者ヨリ酒精ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル醫師、藥劑師、藥種商及製藥者ハ其都度量數代價及賣渡人若クハ讓渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ
- 第八條 前項ノ酒精ヲ販賣スルトキハ其都度量數代價及買受人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ醫師ノ證明書(醫師ノ場合ニ於テハ處方書)ヲ添ヘ置クヘシ其使用又ハ讓與ニ係ルモノモ亦之ニ準スヘシ
- 第九條 前各項ノ帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ
- 第十條 工業用酒精ニ係ル營業稅ノ免除ヲ請ハント欲スル者ハ販賣若クハ使用以前ニ管廳ニ其量數ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ當該官吏ハ百分ノ八乃至十ノ割合ヲ以テ願人ノ望ニ從ヒ木精(メチールアルコール)若クハ石油ヲ混和スヘシ但其物品ノ費用ハ願人之ヲ負擔スヘシ
- 第十一條 第三條第四條第五條ヲ犯シタル者及第六條第七條ノ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

●印シタル注文書、物品領收書等

- 第一條 酒精營業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ一箇年販賣見込石量ヲ記載シタル願書ヲ管廳ニ提出シ營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケヘシ
- 第二條 營業場ハ倉庫建物ノ棟數ニ拘ハラス總テ一區域ヲ以テ一箇所トス其區域外ニシテ營業物品ヲ藏置スルニ止マル場所ハ許可ヲ受ケ營業場ノ附屬トナスコトヲ得
- 第三條 前條ノ願書ニハ稅法第三條ノ制限内ニ於テ一箇年販賣見込高ノ税金ト同額ナル現金又ハ國債証券ノ供託受領証ヲ添フヘシ但明治二十六年勅令第五十八號第二條ノ認許ヲ受ケント

スル者ハ之ヲ要セス

營業免許後販賣見込石量ヲ増加セントスルトキハ其都度申出テ税法第三條ノ最高額ヲ限度トシ保証金ヲ追補スルコトヲ得

營業免許後販賣見込石量ヲ減少セントスルトキハ其都度申出テ税法第三條ノ最低額ヲ限度トシ保証金ヲ減少スルコトヲ得

第三條 免許鑑札ヲ受クル者ハ鑑札料金二十錢ヲ納ムヘシ第十條ノ場合ニ於テモ亦同シ
鑑札料ハ明治二十五年大藏省令第三號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條 税法第三條保証ニ充ツル國債証券ノ種類及價格ノ割合左ノ如シ

- 一 有利國債証券
- 一 大藏省証券

國債証券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ大藏省証券ハ其券面ノ金額ニ依ル

第五條 營業者ハ酒精營業免許ト書シタル標札ニ免許鑑札番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第六條 免許ヲ受ケタル者ハ營業開始後七日以内ニ其營業場ニ使用スル諸器械容器類ノ目錄竝ニ地所諸建物ノ圖面ヲ所轄間稅分署ニ差出スヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ツヘシ

第七條 營業者ハ税法第八條ニ基キ營業ノ種類ニ從ヒ左ノ帳簿ヲ調製シ其使用前所轄間稅分署ニ差出シ其檢定ヲ受クヘシ

- 一 酒精製造帳又ハ買入帳
- 一 酒精賣上帳

一 製造原料品買入及運搬帳

税法第五條第二項ニ該當スル者ハ酒精買入帳及使用帳ヲ調製スヘシ

第八條 第六條ノ帳簿及左ノ帳簿書類ハ附込済又ハ受授ノ翌年ヨリ三年ヨリ少ナカラサル期間保存スヘシ

- 一 營業ニ關スル金錢物品判取帳
- 一 營業ニ關スル送狀仕切書及受取書

第九條 營業者ハ毎年其販賣酒精ノ石量又税法第五條第二項ニ該當スル者ハ其消費高ヲ翌年一月七日限リ管廳ニ届出ツヘシ但營業者廢業ノトキハ其際之ヲ届出ツヘシ

税法第六條第二項ノ場合ニ於テハ販賣前其超過スヘキ見込石量ヲ届出ツヘシ
營業稅額ハ前各項ノ届出ニ依リ地方長官之ヲ査定ス

第十條 營業場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ
他ノ管轄地ニ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出テ添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管

廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ
鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出テ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十一條 代替リノトキ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ管廳ニ届出テ免許鑑札ニ變更ノ記入ヲ請フヘシ

第十二條 營業者及税法第五條第二項ニ該當スル者ニシテ酒精ヲ買入ル、トキハ其荷役後三日以内ニ所轄間稅分署ニ届出テ左ニ掲クル書類ノ一若クハ其他取引上証憑トナルヘキ書類ニ當該

官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

一 荷物送り狀

一 仕切書

一 代金領收書

第十三條 税法第五條第二項ニ該當スル者住所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ其旨ヲ所轄間稅分署ニ届出ツヘシ

第十四條 天災其他ノ事故ニ依リ酒精ノ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄間稅分署ニ届出ヲ檢査ヲ受クヘシ

第十五條 營業者廢棄スルトキハ管廳ニ申出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十六條 第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

● 醬麴營業稅則
第一章 免許鑑札 營業稅

● 醬麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第六條 凡ソ醬麴製造種類ヲ製造シテ營業セシムルモノハ其旨管廳ニ届出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受テ二期營業稅トシテ左ノ通納スヘシ

● 醬麴營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受テモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣ノ見込ノ石數毎年十月中管廳ニ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ查換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルガ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ查換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケテ醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅ニ倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳簿ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラズ五拾圓ヨリ多カラザル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醴酒受賣造營業ヲ爲シ又ハ酒類製造スルヲ許サス

● 醬麴營業稅則

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑罰第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醬油營業者ノ家族雇人ハシテ其營業ニ依リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

●醬油稅則

第一條 醬油溜ナリ併製造ノ營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許證札ヲ受クヘシ但製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 醬油諸味ニ石ニ付 金壹圓
溜ハ製成ニ石ニ付 金壹圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業者爲メ者ハ免許證札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

第二期 九月三十日限

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其賣受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許證札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等己ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出ツル後ニ非サルハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

- 第十條 醬油製造人ハ造石稅査定未済ノ醬油ヲ賣渡貨渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス
- 第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカヲサル事故ニ因リ廢業ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得
- 第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚稅狀若クハ其他証憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ
- 第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ
- 醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス
- 第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ
- 第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス
- 第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其証票ヲ携帶スヘシ
- 第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ証票ヲ携帶スヘシ

- 第十九條 免許鑑札ヲ受ケシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス
- 第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス
- 第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ
- 第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者ハ第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及通稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス
- 第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス
- 第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ其稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス
- 醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡癩ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス
- 第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海釧路及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セズ但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ツヘシ

●醬油稅則施行細則 (二十一年八月二日大藏省令第九号)

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ツヘシ

第三條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査派出所ニ届出ツヘシ

第四條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査派出所ニ届出ツヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ

第五條 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ選ギ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ掲ケル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受ク可シ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法
口徑 口徑ヨリ三寸 口徑ニ底徑 底面ニ底徑ノ箇所ヲ取レモ内測ニテ縱横ニ圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シニテ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等點ノ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス

但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則
口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス
胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ヲ乘シニテ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得

容器中種類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第八條 石數査定ノ際其入實容積測定ノ全量ニ滿テサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

●醬油稅則施行細則

四百六十三

入實胴徑より以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス
此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ底徑ヲ減
シ空積ノ深サヲ乘シニ倍シ全深ニテ除
ク之ヲ口徑ヨリ減シ

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乗シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑ト相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四
乘率ノ一位ヲ石位トシ寸量尺度ハ分ヲ乘シ其得
位ニ止メ尺位ナ一位トス以下準之

石數ヲ容器帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス
此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアル
二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト底徑ト相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第九條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期限内ニ
鑑札ノ再渡又ハ替換ヲ請フヘシ

一 代替替換ハ

一 其他ノ替替再渡ハ

六十日間

十日間

第十一條 製造場ヲ他府縣ニ移轉シントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ届出添書ヲ受クニ二十
日以内ニ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ替換ヲ請フヘシ

第十二條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定済ニ係ル鑑札ノ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ
納ムルコトヲ得

第十三條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳記シ所管租稅
檢査員派出所ニ申出ヘシ前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト
視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 造石數査定未済ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管
租稅檢査派出所ニ届出ヘシ

第十五條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳 醬油類製造帳 醬油仕込帳 醬油賣揚帳

第十六條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十七條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石
數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査済
證明書ヲ受クヘシ

第十八條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ証憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ証明
書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第十九條 輸出醬油石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成
シタル平均歩合ニ依リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月
日日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

- 第二十一條 稅則及細則ニ於テ石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス
- 第二十二條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セザルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
- 第二十三條 第一條但書ノ許可ヲ受ケタル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十四條 此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

●煙草稅則

- 第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス
 - 煙草製造人
 - 葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者
 - 煙草仲買人
 - 葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者
 - 製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者
 - 煙草小賣人
 - 製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者
 - 第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ精神ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
 - 第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正賣ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ証約スル爲メ証約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ
 - 証約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ証約金額ヲ記入スルモノトス
 - 營業場一箇所毎ニ五十圓以上
五百圓以下
 - 煙草製造人此稅則ヲ犯シ証約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ証約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ
 - 第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ
 - 第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ
 - 煙草營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢
 - 煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢
 - 煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢
 - 第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ
 - 煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金拾五圓
 - 煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金拾五圓
 - 煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓
 - 第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クル時ハ其前該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

- 第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ
- 第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ
- 第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ
- 第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ヲ檢査テ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他証憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之レヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ
- 第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡讓渡スコトヲ得ス
- 第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニテラス
- 第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニテラス
- 第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス
- 第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス
- 煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡讓渡スコトヲ得ス

- 第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス
- 第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス
- 第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス
- 第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其証票ヲ携帯スヘシ
- 第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ通脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス
- 第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス
- 第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ヲニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス
- 第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾

圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ賈流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ賈流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサルモノニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一條第二十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解錠毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消燬シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第三十三條 煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ証約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌クニ至ラサル刻煙草ハ所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

◎煙草稅則第十一條但書ノ場合ニ於テノ取扱方

第一項 稅則第十一條但書ニ據リテ其金額ヲ納付シタル者ハ之ニ對スル稅關ノ證明書ニ右製造煙草ノ量目包數及ヒ價格目錄ヲ添ヘテ其地稅檢査員派出所ニ届出テ檢査ヲ受ケシムヘシ

第二項 前項製造煙草ノ包裹又ハ貼用印紙當初輸出ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタル時ノ形狀ヲ變更シタルモノナルトキハ右輸入主ニ於テ最寄製造人ニ委託シ之ヲ改裝シテ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

第三項 前項改裝シタル煙草ニ對スル印紙ノ下付ヲ請求スルトキハ租稅檢査員ノ審明ヲ經テ之

●煙草稅則

四百七十一

ヲ下付スヘシ

煙草稅則施行細則 (二十一年四月二十六日大藏省令第三号)

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所
建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキ
ハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ証約金額ハ証約者ノ雇人、器械ノ買取及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳
長官府縣知事之ヲ定ム北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ買取坪數ニ拘
ハラス証約金額ヲ増減スルコトアルヘシ証約ノ手續及ヒ証約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 煙草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數
及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所トモ)ヲ其願書ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但異
動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第四條 稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲グル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス
一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
第六條 煙草營業者不在其他事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ
會社營業ノ場合ニ於テモ亦之ニ準ス
但代人ノ氏名住所ハ所轄收稅署ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限
但會社ニシテ其業務ニ從事スル役員又ハ當時雇人ヲ以テ仕入出賣ヲ爲ス場合ハ本條ノ限
ニテナス

第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如ク
黑色 一枚 二厘 淡青色 一枚 三厘 黃色 一枚 四厘 赭色 一枚 六厘
暗黃色 一枚 八厘 淡青色 一枚 壹錢 茶褐色 一枚 壹錢貳厘 淡紅色 一
枚 壹錢六厘 桔梗色 一枚 壹錢八厘 橙黃色 一枚 貳錢 老綠色 一枚 貳
錢四厘 濃青色 一枚 三錢 淡黑色 一枚 三錢貳厘 黃綠色 一枚 四錢
嬌栗色 一枚 四錢八厘 紫色 一枚 六錢 朱色 一枚 六錢四厘 赤色 一枚
八錢

第九條 製造煙草ノ包裝每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付	百本入	二百本入
	八十本入	一百本入
	六十本入	八十本入
	五十本入	六十本入
	四十本入	五十本入
	三十本入	四十本入
	二十本入	三十本入
	十本入	二十本入
	五本入	十本入
	十本入	二十本入
	二十本入	四十本入
	四十本入	六十本入
	六十本入	八十本入
	八十本入	百本入
卷煙草每一包(函)ニ付	二十本入	五十本入
	十本入	二十本入
	六本入	十本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又ハ紙包入りトシ、其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セザルハ煙草ヲ取り出スヲ得ルモノトシ、密封スヘシ

製造煙草ニハ普通ノ文字ヲ以テ每箇ノ本數定價及製造人ノ氏名(會社ニ在ラバ社名)營業場ヲ鮮明ニ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

煙草營業人ニ於テ所持ノ製造煙草ヲ定價以上ニ賣捌カントスルトキハ原製造人ニ托シ定價ヲ改メ改定定價ニ相當スル印紙ヲ増貼セシムヘシ

第十一條 煙草印紙ノ枚數連貼スルコトヲ得

第十二條 製造煙草每一箇ノ定價位ニ滿タサル端數ナルトキハ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人コトモ之ヲ賣買シ若クハ譲渡受テ爲スコトヲ得ス

第十五條 煙草營業者ハ函箱見本トシテ每種刻煙草五枚紙巻煙草十本葉巻煙草五本ニ超ヘザル包裹ヲ切替キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルコトヲ得(二十四年三月五日大藏省令第二號ヲ以テ本條改正)

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ形跡ヲ掛ケテ之ヲ捺押スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ巻煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵、一壹カマスレ又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ビ買入レタル番號、年月日、預リ主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但第二十條ノ認許ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者營業場外ニ於テ煙草葉拵又ハ賃巻ヲ爲サシメントスルトキハ其仕業ノ種別、職工ノ住所氏名年齢ヲ詳記シタル書面ヲ添へ所轄稅收稅署ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

前項認許ヲ受ケタルモノハ通帳ヲ製シ煙草營業者何某使用職工住所何某ト記シ之ヲ職工ニ渡シ置キ煙草ヲ授受スヘシ但通帳ハ使用以前所轄稅收稅署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ其附込濟又ハ使用ヲ止メタルトキハ其時ヲ消印ヲ受クヘシ

總テ煙草ヲ授受スル片ハ左ノ事項ヲ詳記シ授受ノ証トシテ其時ヲ受取人ニ於テ關印スヘシ

一 仕上原料葉煙草又ハ賃巻原料煙草ノ量目及職工ノ受取タル年月日

一 仕上ケ日限仕上ノ種類量目(賃巻煙草ハ原料刻煙草一斤又ハ百目ニ付仕上ケ何分)

一 紙巻煙草ニ用ユル巻紙ノ數量

通帳ハ二箇月分月計ヲ附シ置キ當該官吏ノ求メアルトキハ之ヲ差出シ檢査ヲ受クヘシ

營業者ハ職工ニ於テ煙草ヲ滅失シタルトキハ三日以内ニ其旨所轄稅收稅署ニ届出クヘシ

左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄稅收稅署ニ届出ツヘシ

一 職工ニ與動アリタルトキ

●煙草稅則施行規則

二 通帳紛失シタルトキ
 一 職工氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキ
 第二十一條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添附スヘシ

煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 葉煙草ノ種類番號荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷造主ノ氏名住所
 二 製造煙草ノ種類包裹ノ區別箇數荷造主ノ氏名住所

第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ
 一 印紙賣渡ノ年月日
 一 印紙ノ種類枚數
 一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ検査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦全シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅検査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ
 第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一 代書書換ハ六十日間
 一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年保存スヘシ

第二十八條 (二十四年四月大藏省令第七號ヲ以テ本條ニ刪除ス)

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第二十一條乃至第五項第廿一條第一項第三十條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十條第六項第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第三十一條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ協合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

● 煙草稅則取扱方要領

煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一款 吸煙ノ用ニ供スル煙草類(混合製ノ諸品トモ)ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一 葉煙草ノ取締即チ檢証封印等ノ方法ヲ施スコト

三十四年四月大藏省訓令第三十九号ヲ以テ本項ヲ刪除シ

一 質抵當ニ係ル煙草ノ受授及廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト

一 煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト

一 煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト
一 內國產製ニ非ラサル煙草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齢、免許ノ番號及ヒ其年月日ヲ記載ス可シ

第四款 製造煙草ノ包裹ニ各種ノ商標、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カント可シ

第五款 天災其他抗拒スヘカヲサレ事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裹及ヒ其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

●煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續
本年四月勅令第二十六號煙草稅則第三條ニ據リテ管廳ニ差出ス證約狀ノ調製左ノ如シ

第一項 證約狀ハ左ノ様式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス

第二項 證約金額ハ管廳ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス

第三項 證約狀ノ保證人ハ最寄郡區内ニ住シ正實ニシテ同府縣内ニ於テ所得稅ヲ納ムル資産アル者ニ名以上ヲ要ス

證約狀
一金何十圓也

一 私儀煙草製造營業御許可相成候上ハ左ノ事項ヲ確守スル爲メ前項ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證約ヲ爲スル如件

第一款 營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲ爲ス事

第二款 此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セラルトキハ徵收御達ノ日ヨリ五日以内ニ無相違完納スヘキ事

第三款 前記日限内ニ證約金ヲ上納セサルトキハ違背ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ辨納可致事

若之通相違無之候也

年 月 日

何府何區何町 本人 何 某印
何府何區何町 保證人 何 某印
何府何區何町 保證人 何 某印

何府何區何町 保證人 何 某印

何府何區何町 保證人 何 某印

何縣知事氏名殿

●煙草印紙交換手續

煙草稅則改正ニ付煙草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 煙草營業者天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裹若クハ其包裹ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルトキハ其損失ニ係ル印紙ノ價格一口壹圓以上ノ者ニ限リ新印紙ト交換ヲ請求スルコトヲ得

第二條 印紙交換ヲ請求セントスル煙草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受ケル

第三條 租稅檢査員其事實ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ルキハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其煙草ニ封印ヲ施シ煙草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製セシメ其餘白ニ審明ヲ証シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ煙草營業者ニ下戻スヘシ

第四條 煙草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ

第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ
損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格

一貳拾圓未満壹圓ニ付 八拾錢 一貳拾圓以上一圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ

第七條 煙草營業者新印紙ヲ領取シタルトキハ租稅檢査員派出所ニ申出第三條煙草封印ノ解除

ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受ケル

●煙草耕作人届出及取纏方

煙草耕作人ト非耕作人トノ區別ヲ明カニスルハ稅則上緊要ノ事件ナルカ故ニ右耕作人ノ届出ニ各地方收稅部出張所ニ於テ之ヲ取纏メ稅則執行上ノ要用ニ供スヘシ尤右届出取纏メ方ハ各地ノ事宜ニ應ジ簡便ヲ量リ之ヲ施行スル儀ト心得ヘシ

●菓子稅則

菓子稅則別紙ノ通リ制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島、小笠原島、函館、沖繩縣、札幌縣、根室縣ハ當分ニシテ施行セス

菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子卸賣人

菓子小賣人

菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受ケルヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼メル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受ケルヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕

入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受ケルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

（菓子稅則）

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢 仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢 出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ管廳ニ届出其再渡又ハ替換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ムル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓 雇人六人以上アル者 一ケ年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一ケ年 金拾圓 雇人二人アル者 一ケ年 金五圓 雇人一

人アル者 一ケ年 金三圓 雇人ナキ者 一ケ年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓 雇人六人以上アル者 一ケ年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一ケ年 金拾圓 雇人二人アル者 一ケ年 金五圓 雇人一

人アル者 一ケ年 金三圓 雇人ナキ者 一ケ年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一ケ年 金七圓 雇人二人アル者 一ケ年 金三圓 雇人一

人アル者 一ケ年 金貳圓 雇人ナキ者 一ケ年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲スモノハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一ケ年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十

一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル

者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納

ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ

開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ

業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

- 第十四條 菓子製造税額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム
- 第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第十六條 削除
- 第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ製造ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス
- 第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ關リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

●賣藥規則

第一章

- 第一條 此規則ニ稱スル所ノ賣藥トハ丸藥、膏藥、煉藥、水藥、浴劑、散藥、煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ
- 第二條 此賣藥營業者ハ藥味、分量、用法、服量、効能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其個所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ検査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許ササルヘシ
- 第四條 藥味、分量、用法、服量、能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
- 第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タル者ハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第六條 賣藥營業者及請賣者共ニ免許ノ看板ヲ掲クヘシ
- 第七條 賣藥營業者及請賣ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ニ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ
- 第八條 (十九年勅令第七十)
(三號ヲ以テ削除)
- 第九條 (全上)
- 第十條 製藥第三條ニ掲クル所ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等

ノ下アル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受シヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前替換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ハ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥全業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一箇年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ヲ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セン時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ請賣スルモノ及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ (全上)

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ

●賣藥印紙稅規則

付キ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ
第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取組ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシ
テ其罰金ノ半高キ與フヘシ

◎大藏省令第三十一號

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受讓受預置又ハ所持スルヲ得ス犯スモノハ金壹圓九拾五錢
以下ノ科料ニ處ス

◎大藏省訓令第十八號

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方ハ願書ニ印紙ヲ貼付セス鑑札下付ノ際印紙ヲ貼付シタル鑑
札領收証ヲ出サシムヘシ

●賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘ

印紙稅ノ割合	
一定價壹錢迄	印稅 壹厘
一同 貳錢迄	同 貳厘
一同 三錢迄	同 三厘
一同 五錢迄	同 五厘
一同 拾錢迄	同 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第三條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘 淡黑色 貳厘 青色 三厘 黃色 五厘 茶褐色 壹錢 赭色 貳錢 綠
 色 三錢 濃青色 四錢 橙黃色 五錢 紫色 拾錢 深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛テ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不
足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以
下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰
金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ
沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

●賣藥印紙交換規則

賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

第一條 賣藥營業人所持シ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄セヨカ爲メ既貼シ印紙不用ニ屬ス

●賣藥印紙稅規則

既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙ハ八拾錢

貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラザルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ任譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ証ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

●藥品營業並藥品取扱規則 (二十二年三月十五日法律第十號)

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齢滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ届出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登録シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換テ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非ザレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設ケルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サン」ヲシテ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲシ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ處アルトキハ其醫師ニ質シ証明書ヲ得ルニ非ザレハ調劑スルコトヲ得ス

第十五條 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十六條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ販賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ販賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ

非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ檢査ヲ經テ其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師製藥商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師製藥商製藥者タルノ証明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ販賣スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅匈語又ハ他ノ外國語下併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製藥者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其証票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得ズシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十二條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス

第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自

宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ証明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効チ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年ハ第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學醫學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○内務省令第一號(二十四年四月七日)

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並ニ取扱規則第八條屆書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルハ其財產ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

○内務省令第一號(二十六年一月十九日)

○藥品營業取締規則

四百九十五

衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外凡ソ物品ノ廣告揭示印刷物又ハ其容器包紙ニ衛生局又ハ衛生試驗所ノ保証又ハ試驗藥其他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス若シ衛生試驗所ノ試驗成績ヲ表示セントスル者ハ其成績書ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ増減變更スルコトヲ得ス此省令ニ違背シタル者又ハ衛生試驗所ノ検査ヲ詐稱シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス本令ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

●狩獵法

(二十八年三月廿日法律第二十号)

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放箭竊繩又ハ銃ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獲具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、据銃若ハ危險ナル毘及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官「東京府下ハ警視總監以下敬之」ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ遠スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地
- 七 欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免許ヲ受クヘシ但シ欄、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免許ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一 等 所得稅拾五圓以上若ハ地租貳百圓以上納ムル者甲種金五圓乙種金拾圓
- 二 等 所得稅三圓以上若ハ地租四拾圓以上納ムル者又ハ一 等ニ相當スル者ノ家族甲種金壹圓

●狩獵法

一五拾錢乙種三圓

三等 一等二等以外ノ者甲種金五拾錢乙種金壹圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日

ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セザル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ替換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條 遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受タル者ハ甲種金五圓乙種金拾圓ノ免狀

許稅ヲ納メ其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規格外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀

ハ爾後無効ノモノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停

止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以前ニ於テ販賣スルハ此ノ

限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長

官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獲ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者

ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七拾圓以

下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一及至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五拾圓以

●狩獵法施行細則

下ノ罰金ニ處ス
前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス
第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノトス
第二十五條 此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコトヲ得

◎農商務省第七號(廿八年四月廿二日)

所轄官林内ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムル場合ハ本年法律第二十號狩獵法第十九條第二項及本年當省訓令第四號狩獵法取扱手續第一條第二項ニ準據シ地方廳ノ承認ヲ得タル上部下ノ吏員チシテ驅除方實施セシメ其驅除シタル鳥獸ノ名稱及員數ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ取廻メ地方廳ニ報告スル儀ト心得ヘシ

●狩獵法施行細則 (二十八年三月廿七日省令第四号)

第一條 狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ無聲、投網、霞網其他ノ張網トシ網綱ハ流シ網、張網繩トシ又箝ハ高箝、千本箝トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處置ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條 狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ)ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ届出ツヘシ

第六條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ(雛形略ス)

第八條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖書及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

●狩獵法施行細則

第九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ發シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超エサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雜形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ届出ツヘシ(雜形略ス)

第十二條 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス
一 鶴 (ツル) 一 燕 (ツバメ) 除ク
一 小雀 (コノハズ) 一 日雀 (ヒツメ) 一 四十雀 (ヤマトシロ) 一 五十雀 (イナズナ) 一 柄長 (エダシ)

第十五條 左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス
一 雉 (トビ) 一 ヤマドリ

第十六條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス
一 鶺鴒 (トビ) 一 椋鳥 (トビ) 一 ヒタキ 一 雲雀 (トビ) 一 鶺鴒 (トビ) 一 鶺鴒 (トビ) 一 小啄木 (トビ) 一 鶺鴒 (トビ)

第十七條 札幌ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ札幌ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條 北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

◎農商務省告示第五號(二十八年四月二日)

本年法律第二十號狩獵法第六條狩獵免狀ノ雜形及本年當省令第四號狩獵法施行細則第八條第十條共同狩獵地出願書式及圖面ノ雜形左ノ通相定ム

一等免狀雜形 紙地白色

●狩獵法施行細則

表
川下大

狩獵免狀 農商務省 許之証	狩獵免狀 等一級 乙) 甲		番号	第号
	年	氏名	職業	住所
明治 年 月 日				

五寸五分
花紋赤

裏
川下大

狩獵法摘要

五寸五分

第一號書式(用紙美濃紙)
 二等(紙地綠色) 三等(紙地淺紅色)
 二等三等モ紙色ヲ異ニスルノミ狀中記載ノ事柄ハ同シキヲ以テ圖ハ省略ス
 共同狩獵地免許願

本籍
現住所
職業

年 某 齡

何府何國何市何町何大字何

小字何全地

但官地何々
民地何々

小字何ノ内

但官地何々
民地何々

合計

右ノ箇所從來ノ慣行ニ依リ共同狩獵地ト致度ニ付御許可ノ日ヨリ向フ何年間免許相成度明治
 二十八年法律第二十號狩獵法第七條及同年御省令第四號狩獵法施行細則第八條ニ據リ別紙狩
 獵ノ慣行調及圖面添此段相願候也

前書之通相違無之ニ付証明ス
 年 月 日

現住所

何市町村長

共同狩獵免許地

何市町村長

何 某 ①

何 某 ②

何 某 ③

●狩獵法施行細則
第二號書式(用紙美濃紙)

共同狩獵地變更願

五百六

本籍	何
現住所	何
職業	某
年 齡	某
合計何町步	何
何縣何國何市何郡何村	
右從前許可ノ分	
何縣何國何市何郡何村大字何	
小字何全地	
但官地何々	
但民地何々	
小字何ノ内	
但官地何々	
但民地何々	
合計	
右今回増加(減)ノ分	
總計	
明治何年農第何號ヲ以テ共同狩獵地免許相成候處更ニ接續地何町步ヲ加ヘ(前共同狩獵地何町步ヲ減シ)其區域變更致度ニ付御許可相成度明治二十八年法律第二十號狩獵法第七條及同年御省令第四號狩獵法施行細則第十條ニ據リ別紙圖面添此段相願候也	
前書之通相違無之ニ付証明ス	
年 月 日	何 某
現住所	何市町村長
共同狩獵免許地	何
何市町村長	何
農商務大臣宛	某 團

圖面雛形

農商務大臣宛

●狩獵法施行細則

五百七

備考

圖面ニハ左ノ事

項ヲ記載スル

一 地勢（池、川、
ハ其面積）

一 周囲ノ郡市町
村名

一 周囲ノ間敷

一 水面ニ於ケル

共同狩獵地ノ

境界線ハ一定

不動ノモノニ

齒ヲ見通シ若

シ一定不動ノ

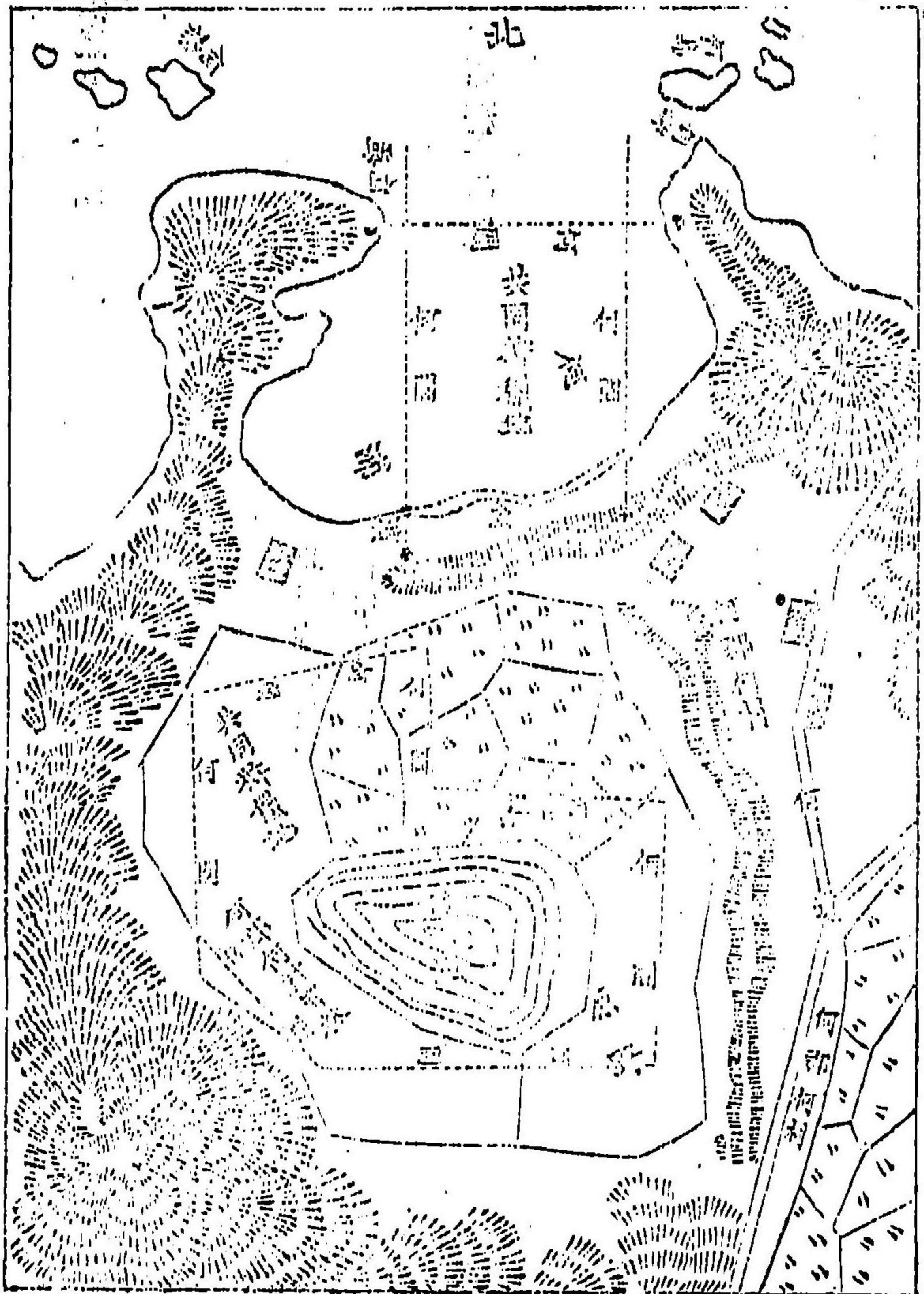
モノナキトハ

木標ニ齒ヲ建

設シ之ヲ見通

シテ定ムル

但湖沼ノ全面ヲ共同狩獵地トスル如キ場合ハ此限ニテマシ



● 鹿虎鹿鹿鹿法（二十八年三月二日法律第二十号）

第一條 鹿虎鹿鹿鹿ヲ獵獲セントスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 鹿虎鹿鹿鹿保護ノ爲メ勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵船獵具獵法ヲ制限シ牝牡年
齡ニ依リ其ノ獵獲ヲ禁止スルコトヲ得

第三條 軍艦艦長警察官吏税關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鹿
虎鹿鹿鹿獵船獵具及獵獲物ノ検査ヲ行ヒ犯則者ト認ムル者及船員ヲ扣留シ獵船船具獵具船
籍證書及獵獲物ヲ差押スルコトヲ得

第四條 禁獵區内又ハ禁獵期間ニ於テ鹿虎鹿鹿鹿ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重
禁錮又ハ二十回以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハズ獵船船具獵具及獵獲物ヲ沒
收ス

第五條 獵船獵具獵法ノ制限及牝牡年齢ニ依ル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船獵具及獵獲物ノ
検査ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ十一月以上一月以下ノ重禁錮又ハ二回以上五十圓以下ノ
罰金ニ處ス

第六條 第一條ノ免許ヲ受ケメシテ鹿虎鹿鹿鹿ヲ獵獲シタル者ハ二回以上五十圓以下ノ罰金ニ
處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條 第四條第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其ノ代價ヲ追徵ス
第八條 此ノ法律ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十六號布告及明治十九年勅令第八十號ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

● 狩獵法施行細則

西洋形船舶検査手續

(二十六年十二月二十八日總務省訓令第七号)

西洋形船舶検査手續左ノ通改正ス

西洋形船舶検査手續

第一章 總則

第一條 船舶検査官吏ハ本手續ノ規定ニ依リ船舶ノ旅客及貨物ヲ搭載シ安全ニ航通シ得ヘキコトヲ目的トシ船體機關ノ現状ヲ細密ニ検査スヘシ

第二條 船舶ノ検査ハ特別検査定期検査及臨時検査ノ三種ニ分チ之ヲ執行スヘシ

第三條 特別検査ハ船舶ヲ帝國ノ船籍ニ編入シ始メテ航行ノ用ニ供セントスルトキ及爾後船舶ノ狀況ニ依リ三年乃至五年毎ニ一回宛執行スヘシ

定期検査ハ検査証書有効期限滿了ノトキ又ハ検査細則第三十條ニ依リ出願アリタルトキ執行スヘシ

臨時検査ハ検査証書有効期限内ニ於テ船體機關ノ要部ニ損所若クハ變更ヲ生シタルトキ又ハ検査証書記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船舶ノ臨時入渠若クハ上架シタルトキ其他検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキニ於テ執行スヘシ

第二回以後ノ特別検査ハ定期検査ノ時期ニ於テ之ヲ執行スヘシ

臨時検査ハ検査官吏ノ見込ニ依リ定期検査ヲ兼テ執行スルコトヲ得

第四條 定期検査及臨時検査ハ船舶碇泊中ニ執行シ得ヘシト雖モ検査細則第二十條第一項ニ定ムル入渠若クハ上架ノ期限ニ相當スルトキ又ハ船體汽關ノ要部ニ變更損所ヲ生シ検査官吏ニ

於テ必要ト認ムルトキハ入渠若クハ上架ヲ命シ船底外部及推進器船尾管等ヲ検査スヘシ

特別検査ニ於テハ必ス船舶ヲ入渠若クハ上架セシメ定期検査ニ於テ検査セサル部分ヲ検査スルハ勿論船體機關ノ内外共特ニ細密ニ検査スヘシ

特別検査ニ於テハ毎回定期検査及臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ必要ト認ムルトキニ限リ試運轉ヲ執行セシムヘシ

第五條 検査官吏検査ヲ終了シタルトキハ特別検査ニ於テハ第一號書式ノ報告書並ニ第二號書式ノ件名書定期検査ニ於テハ第一號書式ノ報告書並ニ第三號書式ノ件名書臨時検査ニ於テハ第四號書式ノ報告書並ニ適宜ノ件名書ヲ調製シ船舶同檢所ノ検査官吏ハ當該所長ヲ經テ逕信大臣ニ地方官廳ノ検査官吏ハ直ニ當該長官ニ報告スヘシ

各検査ニ於テ修繕改造若クハ屬具ノ整備ヲ命シタルトキハ件名書ニ其趣ヲ詳細ニ記入シ且別ニ其命令事項ヲ記シタル書面ヲ作り検査官吏署名捺印ノ上之ヲ封緘シ船主船長若クハ其代理人ニ交付シ次回検査ノトキ臨檢官吏ニ提供スヘキコトヲ命スヘシ

第六條 數名ノ検査官吏ニ於テ一船ノ検査ヲ分擔シタルトキハ各自其擔當部分ニ付検査報告書及件名書ヲ調製シ並ニ検査假証書ヲ下付スルトキハ該証書ニ連署捺印スヘシ

検査執行中検査官吏交代シタルトキハ最後ノ臨檢官吏検査報告書又件名書ヲ調製シ並ニ検査假証書ヲ下付スルトキハ該証書ニ署名捺印スヘシ

第七條 検査官吏検査細則第五條ニ依リ検査假証書ヲ下付シタルトキハ其趣ヲ報告書ニ記載ス

検査假證書ノ期間ヲ定ムルハ成規ノ三箇月ノ範圍内ニ於テ本證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ斟酌シ之ヲ定ムヘシ

第八條 検査細則第九條ニ依リ同則第八條規定ノ航路區域外ニ航通シ又ハ其區域外ノ地ニ於テ更ニ區域ヲ限リ航通センコトヲ船舶司檢所若クハ地方官廳ニ願出タルトキハ當該検査官吏ニ於テ船舶ノ現状及航路ノ難易ヲ查察シ意見書ヲ調製シ願書ト共ニ遲滞ナク逕信省ニ進達スヘシ

第九條 検査細則第十條第三項及第四項ニ依リ航路定限外航行ノ認可ヲ願出テ検査官吏ニ於テ回船ニ差支ナシト認メタルトキハ認可書ヲ下付スヘシ
前項ノ認可書ニハ目的地ニ到達シ得ヘキ豫定日數ヲ明記シ若シ船舶ノ現状ニ依リ壓艀物トシテ貨物ノ搭載ヲ許可シタルトキハ其旨ヲ併セ記入スヘシ

第十條 検査細則第二十二條第二十六條及第二十八條ノ規定ニ依リ船主若クハ船長ヨリ船舶ヲ入渠若クハ上架センコトヲ届出又ハ検査證書ヲ再授若クハ書換テ願出又ハ船體機關ノ要部ニ變更若クハ損所ヲ生シタルコトヲ届出テタルトキ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ本船ニ臨檢シ本手帳第五條ノ報告ヲナスヘシ

第十一條 海難ニ罹リタル船舶ヲ臨檢シタルトキハ其損所ノ略圖夜間ノ衝突ニ係ルトキハ船體舷燈隔板ノ位置方位等ヲ調査シ臨檢調査ヲ作リ第五條ノ手續ニ依リ逕信大臣若クハ地方長官ニ報告スヘシ

第十二條 検査細則第二十五條ニ依リ検査官吏ニ於テ船舶ノ検査證書ヲ取上ケタルトキハ其事

由テ詳記シ船舶司檢所ノ検査官吏ハ當該所長ヲ經テ逕信大臣ニ地方官廳ノ検査官吏ハ當該所長官ニ其旨ヲ報告スヘシ

第十三條 検査細則第二十九條ニ依リ検査細則第八條ノ航路區域内ニ於テ航路ノ變更ヲ願出テザルトキハ本船前回検査ノ状況及變更航路ノ模様ニヨリ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキニ限リ本船ノ臨檢ヲ爲サスヘシ其變更ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 甲地ニ於テ検査ヲ受ケ修繕若クハ改良ヲ命ゼラレ乙地ニ回船シ工事ヲ爲ス場合ニハ甲地ノ検査官吏ハ乙地ノ検査官吏ニ其事務ヲ引繼クト同時ニ引上ケ置キタル検査證書ヲ送付スヘシ

第十五條 検査細則第二十四條ニ依リ検査官吏船舶ヲ改測シタルトキハ測度表ヲ調製シ本手帳第五條ニ依リ報告書ト共ニ進達スヘシ

第十六條 検査官吏検査ノ上修繕改良若クハ器具ノ整備ヲ命シ即時之ヲ爲ス能ハサルトキハ検査官吏ハ船舶ノ現状及航路ノ難易ニ依リ航行ニ差支ナシト認ムル場合ニ限リ三箇月以内ニ於テ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得但此場合ニ於テハ第五條ノ報告書ニ其趣ヲ詳記スヘシ
前項ノ猶豫期間内ニ於テ修繕改良若クハ器具ノ整備ヲナササルトキハ既ニ下付シタル検査證書ヲ引上ケヘシ

第十七條 本手帳中ニ記載スル船體部及機關部ノ検査方法ハ特ニ其餘項ニ記載シタルモノヲ除ク外近海航船以下ノ船舶ニ在テハ本船ノ現状航路ノ難易及旅客定員ノ多寡ニ依リ検査官吏ノ見込ヲ以テ多少ノ省略ヲ爲スコトヲ得

總て検査方法ヲ省略シタル場合ニ於テハ其箇所ヲ検査報告書ニ記載スヘシ

第十八條 船舶司檢所ニ於テ検査証書ヲ下付スルトキハ之ヲ下付スルト同時ニ舊検査証書ハ直ニ之ヲ引上ケ三箇月毎ニ取纏メ検査細則第二十七條ニ依リ返納シタル検査証書ト共ニ逕信省ニ送付スヘシ

第十九條 船舶司檢所及地方官廳ニ於テハ船舶検査原簿ヲ備置キ検査ノ報告事項ヲ記入スヘシ
第二十條 本手續ニ於テ旅客汽船ト稱スルハ十二人以上ノ旅客ヲ搭載シ得ル汽船ヲ云フ
本手續中鐵船ニ關スル規定ハ鋼船ニモ亦適用ス

第二章 船體部検査

第一節 検査準備

第二十一條 碇泊シタル船舶ノ定期検査ヲ執行セントスルトキハ左ノ準備ヲナサシムヘシ但船舶ノ大小及現狀ニ據リ検査官吏ノ見込ヲ以テ多少ノ増減ヲ爲スコトヲ得

- 一 船體ノ内外適宜ノ場所ニ足場ヲ設クルコト
- 二 石炭及壓艀物ハ之ヲ取出シ又船體ニ固著セサル物品ハ成ルヘク取片付水道覆板ハ悉ク取除ケ船體ノ内外部共總テ掃除スルコト
- 三 壓艀水箱ハ悉ク其水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ人孔ヲ開カシメ其檢閱ニ支障ナカラシムルコト

四 船體屬具ノ中取外シ得ヘキモノハ悉ク之ヲ取外シ手用脚筒及豫備操舵機ノ如キモノハ所屬具ヲ取捕ヘ其位置ニ備ヘ置キ銷鎖、大索、帆類、舷燈、信號器其他航海ノ要具ハ總テ

甲板其他適宜ノ場所ニ排列スルコト

五 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ヘ置クコト

第二十二條 入渠若クハ上架シタル船舶ノ定期検査ヲ執行セントスルトキハ第一條ニ掲ケタル準備ノ外鐵船ニ於テハ船底外部ノ塗料ヲ播落シ木船及木鐵交造船ニ於テハ船底包板ノ幾分ヲ剝去シ外板ノ現狀填隙及固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムヘシ

第二十三條 特別検査ニ於テハ第二十一條及第二十二條ニ掲ケタル準備ノ外左ノ準備ヲ爲サシムヘシ但船舶ノ年齢及現狀ニ據リ検査官吏ノ見込ヲ以テ多少ノ増減ヲ爲スコトヲ得

- 一 肋骨及外板内面ノ現狀ヲ檢スル爲メ内板ノ全部又ハ幾分ヲ取離スコト
- 二 梁端及甲板兩側強板ヲ檢スル爲メ甲板ノ幾分ヲ取離スコト
- 三 鐵船ニ於テハ第一項第二項ニ掲ケル準備ノ外船底其他ニ塗リタル「セメント」ノ幾分ヲ取離シ且ツ外板、隔壁、二重底頂板其他要部ニ於ケル鐵板ノ厚ヲ檢スル爲メ小孔ヲ穿ツコト

四 木船ニ於テハ第一項第二項ニ掲ケル準備ノ外船底包板及毛紙ノ全部ヲ剝去シ船骨ノ要部ヲ檢スル爲メ外板ノ幾分ヲ取離シ且ツ固著釘ノ現狀ヲ檢スル爲メ其若干ヲ抜クコト

第二節 検査要項

第二十四條 船體部ニ於テ検査スヘキ要部及要具ハ概テ左ノ如シ

船體内部

内龍骨、兩側内龍骨、彎曲材、船首及船尾肘材、肋材、梁、梁受材、梁壓材、梁曲材、梁

横壁及遮水戸、遮水溝、船底水道、汽機及汽鐘ノ臺、石炭庫、煙囪、船底セメント、
縦通強材、車軸壓道、船尾管上面甲板、二重底内及其頂板、甲板全部、填隙全部、船口、
載貨門、舷窓、天窗諸部固著方法則鉸釘

船體外部

龍骨、船首材、船尾材、龍骨兩翼外板其他外部全部、填隙全部、船底外部ニ通スル諸種ノ
孔穴及所屬ノ機、隅子並ニ芥除、舵及其蝶鉸、諸部固著方法及鉸釘
屬具

檣及圓材類、纜索器具、チエーンブレット、諸帆、錨、錨鎖、揚錨機、錨鎖孔、大索、
三舵具、汚水唧筒、火災消防唧筒及諸屬具、端艇其他救命器具、舷燈、信號器、測量器

第三節 各部検査

第二十五條 碇泊シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ肋材ハ水道覆板ノ下、梁間其他固著セサル内
板ノ下ニ於テ見得ヘキ部分ヲ検査スヘシ其現狀良好ト認ムルトキハ其他ノ部分ヲ露出セシメ
サルモ妨ナシト雖モ若シ其否不明ナルトキハ検査官吏ノ見込ニ依リ彎曲部、甲板間其他ニ
於テ内板ノ幾分ヲ取離サシメ精密ニ肋材ヲ検査スヘシ又梁端及甲板兩側強板ノ現狀不明ニ
シテ腐朽ノ徵候アリト認ムルトキハ梁壓材ニ接スル甲板ヲ取離サシメ其現狀ヲ検査スヘシ
第三十六條 入渠若クハ上梁ニシテ船舶ノ定期検査ニ於テハ第二十五條ニ掲タル検査ノ外船底
外部ノ包板若クハ塗料ノ幾分ヲ取離サシメ龍骨、船首材、船尾材、外板其填隙及固著釘、舵
及其蝶鉸其船底外部ノ現狀ヲ審査スヘシ

第二十七條 特別検査

特別検査ニ於テハ第二十五條第二十六條ニ掲クル検査ノ外船骨外板及甲板等ニ就
キ毎定期検査ニ於テ検査セサル部分ヲ特ニ検査スヘシ但検査方法ハ船舶ノ材料、年輪及現狀
ニ依リ多少ノ増減アルヘシト雖モ概テ左ノ標準ニ據ルヘシ

一 龍骨、外板、舷窓下部、隔壁、二重底頂板、肋板、其他要部ニ於テ腐朽ノ徵候アリト認
ムルトキハ小孔ヲ穿タシメ其現狀及厚サヲ精密ニ検査スヘシ

二 木船ニ於テハ底部外板、彎曲部外版及上部外板ノ諸所ニ於テ其固著釘ノ若干ヲ拔取ラシ
メ其孔釘ノ周圍ニ於ケル外板、肋材及拔取リタル釘ノ現狀ヲ精密ニ検査スヘシ

三 木船ニ於テ梁壓材、梁受材、梁曲材及彎曲材等ノ固著釘鐵製ナルトキハ其若干ヲ拔取ラ
シメ若シ該釘外板ヲ貫カサルトキハ各舷ニ於テ該部ノ外板ヲ取離サシメ木材及固著釘ノ
現狀ヲ審査スヘシ

四 木船ニ於テ内龍骨、船首材、力材及龍骨ノ固著釘鐵製ナルトキハ諸所ニ於テ之ヲ拔取ラ
シメ其現狀ヲ検査スヘシ若シ之ヲ拔取リ難キトキ又ハ其現狀不良ナリト認ムルトキハ相
當ノ増釘ヲナサシムヘシ

五 機關室及石炭庫内ニ於ケル肋材、内龍骨、縦通強材外板等ノ最モ腐蝕シ易キ部分ハ特ニ
精密ニ検査スヘシ

第二十八條 外板及甲板ハ其原厚ノ三分一ヲ損耗シタルトキ又ハ其間隙原厚ノ四分一以上ト
ナリタルトキハ之ヲ更改セシムヘシ

第二十九條 鐵船及木鐵交造船ニ在テハ船體中央ノ部分ニ於テハ必ス每梁船首及船尾ノ部分ニ

於テハ其現品ニ依リ相當ト認ムル支柱ヲ設ケシムヘシ
木船ニ在テハ船體中央ノ部分ニ於テハ隔壁ニ船首及船尾ノ部分ニ於テハ其現況ニ依リ相當ト
認ムル支柱ヲ設ケシムヘシ

前二項ニ掲グル支柱ノ外、甲板室、操舵機、揚錨機、揚貨機等ノ下部ニハ支柱ヲ増設セシム
ヘシ

第三十條 船底、二重底内、壓艀水箱内、其他ノ部分ニ於ケル「セメント」又ハ鐵船及木鐵交造
船ノ鐵部ニ於ケル塗料不長ナリト認ムルトキハ之ヲ塗更ヘシムヘシ

第三十二條 總テ汽船ハ機關室前後ニ隔壁ヲ設ケシムヘシ

登簿噸數二百噸以上ノ旅客汽船ニ於テハ前項ノ隔壁ヲ鐵製ニ爲シムヘシ但明治十九年七月
以前ノ製造ニ係ルモノハ次回検査ノ際迄其改造ヲ猶豫スルコトヲ得

鐵製及木鐵交造ノ汽船ニ於テハ機關室前後ノ外船首及船尾ニ隔壁ヲ設ケシムヘシ且鐵製汽船ニ
テ長サ二百八十尺以上ノモノニ在テハ前船ニ一箇又長サ三百三十尺以上ノモノニ在テハ前船
後船ニ各一箇ノ隔壁ヲ増設セシムヘシ

第三十二條 機關室ノ前後ニ設ケタル隔壁木製ニシテ汽罐トノ距離一尺未滿ナルトキ及汽罐船
體ニ接近スルトキハ毛紙ヲ敷キ鉛板、鐵板若クハ亞鉛板ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ

第三十三條 船首隔壁ハ最上甲板迄達セシムヘシ其位置ハ正甲板ニ於テ船首材ヲ距ルコト最大船幅
ノ二分ノ一以上ヲシムヘシ

機關室前後ノ隔壁及前船後船ニ設ケル増設隔壁ハ上甲板迄又輕甲板船ニ於テハ輕甲板迄覆甲

板船ニ於テハ正甲板迄達セシムヘシ

船尾隔壁ハ上甲板迄輕甲板船ニ於テハ輕甲板迄覆甲板船ニ於テハ正甲板迄達セシムヘシ
船體ノ發泡ニ依リ船首及船尾隔壁ヲ前項ノ高サニ達セシムルヲ得サルトキハ検査官吏ノ見込
ニ依リ他ノ適當ナル方法ヲ用ヒシムルモ妨ケナシ

第三十四條 隔壁ハ其一面ニハ堅ニ又他面ニハ横ニ補強材ヲ設ケシムヘシ各面補強材相互ノ距
離ハ堅ハ二尺五寸横ハ四尺以内トス

第三十五條 登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニ於テハ船尾車軸管ニ達シ得ヘキ車軸隧道ヲ設ケ鐵船
及木鐵交造船ナルトキハ之ヲ鐵製ニナサシムヘシ

第三十六條 隔壁ノ遮水弁及車軸隧道ノ遮水戸ハ載貨水線上ノ甲板ニ於テ障礙ナク閉閉シ得ヘ
キ裝置ニナサシムヘシ

遮水弁ハ載貨ナキトキ常ニ接近シ得ヘキ場所ニ設ケ船内及炭庫内ニ於ケルモノニハ其桿ニ覆
箱ヲ設ケシムヘシ

第三十七條 隔壁及登簿噸數二百噸以上ノ鐵船及木鐵交造船ノ車軸隧道ハ水壓試驗ヲ施シ完全
ニ水密トナサシムヘシ

第三十八條 二重底頂板ニハ相當ノ人孔ヲ設ケ内部ノ検査及塗更ニ便ナラシムヘシ

第三十九條 二重底頂板上ニハ横ニ枕木ヲ取付ケ厚二寸以上ノ内板ヲ敷カシムヘシ

- 第四十一條 艙内ニ設クル壓縮水箱ニハ相當ノ艙口ヲ設ケ水密ニナシ得ヘキ蓋ヲ備ヘシメ特別検査ニ於テハ箱ノ頂上ヨリ少ナクモ八尺ノ高ニ等シキ水壓力ヲ以テ其水密ヲ試験スヘシ
- 第四十二條 正甲板及上甲板ニ設ケタル艙口ハ其縁材ヲ充分高クナサシメ之ニ堅牢ナル覆蓋ヲ備ヘシメ尙ホ之ヲ密閉スル爲メ二枚以上ノ覆布及堅牢ナル板及楔ヲ備ヘシムヘシ
- 第四十三條 甲板間ニ設クル機關室ノ艙口ニハ最上甲板迄圍壁ヲ設ケシムヘシ
- 圍壁鐵製ニシテ之ニ出入口ヲ設クルトキハ堅牢ナル鐵戸ヲ備ヘシムヘシ
- 圍壁木製ナルトキハ甲板上少ナクモ高サ二尺迄ハ成ルヘク之ヲ水密ニナサシメ其上部ニ出入口ヲ設クルヲ得
- 第四十四條 舷側ヲ切斷シ載貨門ヲ設ケタルトキハ肋材及外板ノ力ヲ補フ爲メ其上下及兩側ニ適當ノ補強構造ヲナサシムヘシ
- 第四十五條 載貨門ハ堅牢ナル戸ヲ設ケ蝶鉸ヲ以テ船體ニ固著シ且適當ノ締具ヲ備ヘ之ヲ閉鎖シタルトキ水密ナラシムル様裝置セシムヘシ
- 第四十六條 總テ船舶ニハ明取り及空氣流通ノ爲メ適當ノ舷窓、天窓及空氣筒ヲ設ケシムヘシ内國航船及外國航船ノ舷窓ハ眞鍮製ニシテ堅牢ナル硝子及鐵蓋ヲ備ヘシムヘシ
- 天窓及空氣筒ハ甲板上適當ノ高サニ造リ風濤ノ爲メ破損セサル様充分堅固ニ固著シ之ニ覆布ヲ備ヘシムヘシ
- 第四十七條 總テ船舶ニハ上甲板ニ充分ノ排水孔及排水管ヲ設ケシムヘシ
- 排水孔ノ蓋板ハ堅牢ナル蝶鉸ヲ以テ適宜舷外ニ取付ケシムヘシ

- 甲板間ニハ適當ナル排水管ヲ設ケ船底汚水道ニ導カシムヘシ
- 第四十八條 各船毎艙ニ手用唧筒ヲ備ヘシメ蒸氣船ハ尙ホ蒸氣唧筒ノ吸管ヲ導カシメ毎検査其效用ヲ實檢スヘシ但手用唧筒ハ上甲板ヨリ使用シ得ヘク裝置セシムヘシ
- 第四十九條 船首隔壁ノ前部及船尾隔壁ノ後部ヲ壓縮水箱トシテ用フル場合ニハ之ニ蒸氣唧筒ノ吸管ヲ導カシムヘシ若シ壓縮水箱ニ用ヒサルトキハ船首ニハ手用汚水唧筒ヲ船尾ニハ海水辦ヲ設ケ汚水ヲ車軸隧道ニ導ク裝置ヲナサシムヘシ
- 車軸隧道ニハ蒸氣唧筒ヲ以テ排水シ得ヘキ裝置ヲナサシムヘシ
- 第五十條 船舶ノ各艙ニハ汚水測定管ヲ設ケシムヘシ
- 第五十一條 舵ハ堅固ナル蝶鉸ヲ以テ船尾材ニ固著シ内國航船以上ノ船舶ニ在テハ蝶鉸三組以上ヲ備ヘシメ其距離五尺五寸以内トス舵ノ長サ一丈一尺以上ナルトキハ五尺五寸以内ヲ加フル毎ニ一箇以上ヲ増サシムヘシ
- 第五十二條 特別検査ノ場合又ハ検査官吏ノ必要ト認ムル場合ニ於テハ舵及操舵機ヲ取外サシメ精密ニ之ヲ検査スヘシ
- 第五十三條 總テ船舶ニハ常用操舵機ノ外豫備操舵索一揃ヲ備ヘシメ又内國航船以上ノ船舶ニハ舵鎖ヲ備ヘシムヘシ
- 第五十四條 檣及圓材ハ適當ノ大サニシテ其現狀良好ナルヲ要ス
- 第五十五條 特別検査ニ於テハ檣及船體材ノ楔ヲ拔取ラシメ且上檣、桁其他圓材及綱具ハ成ルヘク甲板上ニ排列セシメ之ヲ検査スヘシ

第五十六條 總テ船舶ニハ適當ノ面積ヲ有スル帆一揃ヲ備ヘシメ帆船ニ於テハ尙少ナクモ左ノ豫備帆ヲ備ヘ置カシムヘシ

方帆ヲ備ヘサル船 } フォールステーセル
メインセーセル

方帆ヲ備フル船 } フォールステーセル
メインセーセル

方帆ヲ備フル船 } フォールステーセル
メインセーセル
トップセーセル

第五十七條 各船ノ錨、錨鎖及大索等ハ左項ニ據リ別表ニ照テシテ備ヘシムヘシ

一 木船及木鐵交造船ニ於テハ上甲板下ノ總噸數、鐵船ニシテ一層二層若クハ三層甲板ヲ備フルモノニ於テハ上甲板下ノ總噸數、鐵船ニシテ輕甲板又ハ覆甲板ヲ備フルモノニ於テハ其甲板下ノ總噸數ヨリ其五分ノ一ヲ減シタル噸數ヲ以テ表中ノ噸數トス

二 表中ニ掲クル大錨ハ每錨同量ニアラサルモ其第一大錨ニ比較シ第二大錨ハ七分五厘第三大錨ハ一割五分迄ノ減量ヲナスコトヲ得然レトモ總錨ノ合量ハ表中ノ量ヨリ減スルヲ得

三 錨量不明ナルトキハ錨ノ總長(環共)ヲ尺ニテ度リ之ヲ三乗シタルモノニ二磅二四ヲ乘シタルモノヲ以テ其大約ノ重量トス

四 總テ錨ハ平時使用セサルモノト雖モ中甲板又ハ上甲板ニ備ヘ置カシムヘシ

第五十八條 錨鎖ハ検査毎ニ甲板上ニ排列セシメ精密ニ検査シ原徑ノ八分ノ一ヲ磨減シタルト

キハ之ヲ更改セシムヘシ(表ハ略ス)

第五十九條 船燈ハ海上衝突豫防法及船燈製造規則ニ據リ其適否ヲ検査シ舷燈隔板ノ長、位置裝置、及檣燈掲揚ノ方法等ヲ精密ニ検査スヘシ

舷燈隔板ハ燈ヨリ少ナクトモ三尺前方ニ突出スヘク其總長サヲ三尺四寸以上ニナサシメ船燈又ハ動搖セサル物ニ取附ケシムヘシ

第六十條 内國航船以上ノ船舶ニハ舷燈、檣燈ノ豫備一箇宛ヲ備ヘシムヘシ

第六十一條 近海航船以上ノ船舶ニ於テハ衝突豫防法第四條ニ規定スル紅燈黑球各二箇以上ヲ備ヘシムヘシ但平水航船ト雖モ其航路多數船舶ノ交通スル場所ニシテ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ備ヘシムヘシ

第六十二條 近海航船以上ノ船舶ニハ國旗二箇以上信號旗一組以上日本信號書及船名録ヲ備ヘシムヘシ但外國航船ニハ英版信號書ヲモ備ヘシムヘシ

第六十三條 平水航船ニハ前條ノ信號旗及信號書ヲ備ヘシムルニ及ハスト雖モ國旗ハ勿論、Cノ二旗及其船ノ信號符字ニ相當スル旗一揃ヲ備ヘシムヘシ

第六十四條 信號火器ハ近海航船ニハ火箭、烟管各六箇以上、内國航船ニハ火箭、烟管、轟彈各六箇以上及救命焰二箇以上、外國航船ニハ火箭、烟管、轟彈各十二箇以上及救命焰二箇以上ヲ備ヘシムヘシ但信號砲、裝藥及導火管等ヲ備フルトキハ轟彈ヲ備ヘシムルニ及ハス

第六十五條 信號火器ハ毎検査ニ於テ能ク臨機ノ使用ニ堪ユルヤ否ヲ検査シ不適當ト認ムルトキハ發火ヲ試ミ取換テ命シ若クハ發火ヲ試ミタル上使用ニ堪ユルト認ムルトキハ其不足ヲ補

第六十六條 汽船ニハ必ス汽笛ヲ備ヘ其前方ニ音響ノ障害ナキ適當ノ位置ニ裝置セシムヘシ
第六十七條 總テ船舶ニハ海上衝突豫防法ニ從ヒ何人コテモ容易ニ吹鳴シ得ヘキ霧中號角一箇
ヲ備ヘシムヘシ

第六十八條 羅針盤ハ平水航船ニハ一箇、近海航船ニハ二箇、内國航船及外國航船ニハ三箇以
上及各豫備ノ「カード」(清酒羅針盤ヲ除キ)ヲ備ヘシメ内國航船及外國航船ニ於テハ其内一箇
ヲ原基 羅針盤トシ適當ノ位置ニ据ヘシメ且之ニ天象脚角ヲ測リ得ヘキ器具ヲ備ヘシムヘシ
第六十九條 時計ハ平水航船及近海航船ニ一箇以上、内國航船及外國航船ニハ二箇以上ヲ備ヘ
シメ外國航船及登簿噸數五百噸以上ノ内國航船ニハ時辰儀及六分儀、航海曆ヲ備ヘシムヘシ
第七十條 晴雨計ハ每船一箇以上ヲ備ヘシムヘシ但港灣内ヲ限リ航通スル船舶ニシテ其必要ヲ
認メサルモノニハ之ヲ備ヘシムルヲ要セス

第七十一條 海圖ハ近海航船ニハ其航路區域及區内港灣ノ分圖、内國航船ニハ日本全國及航通
海岸港灣ノ分圖、外國航船ニハ内國航船ニ要スル海圖ノ外航通外國ノ海岸及港灣ノ分圖ヲ備
ヘシムヘシ平水航船ニハ必要ナシト認ムルトキハ海圖ヲ備ヘシムルコト及ハス

第七十二條 總テ海圖ハ海軍省ノ版刻ニ係ルモノヲ使用セシムヘシ出版ノ後改正ヲ加ヘラレ
ルトキハ其海圖ハ使用ヲ許可スヘカラス但小改正ヲ加ヘラレ其改正以前ニ出版シタル海圖ニ
シテ水路部ノ告示ニ依リ改正ノ廉ヲ記入シタルモノハ此限ニアラス
英國海軍省出版ノ海圖ハ最近ノモノニ限リ海軍省出版ノ海圖ニ代用セシムルコトヲ得ヘシ

第七十三條 内國航船以上ノ船舶ニハ最近ノ刊行ニ係ル航路標識便覽表一冊ヲ備ヘシムヘシ但
滿三年前ノモノト雖モ改正増補ノ廉ヲ記入シタルモノハ使用ヲ許可スルコトヲ得

第七十四條 手用測深鉛及線ハ每船二組以上ヲ備ヘシムヘシ但河川ヲ限リ航通スル船舶ニシテ
其必要ナシト認ムルトキハ此限ニアラス

第七十五條 深海測深鉛及線ハ近海航船以上ノ船舶ニ於テハ一箇以上ヲ備ヘシメ登簿噸數五百
噸以上ノ旅客船ニ於テハ尙ホ鋼線ノ測深機一箇以上ヲ備ヘシムヘシ

第七十六條 雙眼鏡ハ每船必ス一箇以上ヲ備ヘシムヘシ

第七十七條 測程具ハ近海航船以上ノ船舶ニ於テハ手用測程具一組以上砂漏計二箇以上ヲ備ヘ
且ツ内國航船以上ノ旅客船及外國航行ノ帆船ニハ尙ホ機械製測程具一組以上ヲ備ヘシムヘシ

第七十八條 航海日誌ハ每船之ヲ備ヘシムヘシ但近海航船以下ノ船舶ニ於テハ畧日誌ヲ備フル
モ合格ト見做スヘシ

第七十九條 旅客船ニハ左表ニ依リ端艇ヲ備ヘシムヘシ其容積ハ外部ニ於テ長幅ヲ測リ又長ノ
中央内部ニ於テ深ヲ測リ各之ヲ相乘シタルモノ、十分ノ六トス但救命艇ニ於テハ空氣函ノ容
積ヲ除クニ及ハス

第八十條 救命艇ハ左項ニヨリ検査スヘシ
一 船尾方形ナルモノハ救命艇トナスヲ得ス而シテ長サ二十呎以上ナルトキハ艇ヲ二列立ニ
ナサシムヘシ

二 艇積每十立方尺ニ付一立方尺半ニ當ル割合ヲ以テ水密ナル空氣函ヲ備ヘシムヘシ

三 亞鉛製ノ艇及同製ノ空氣函ヲ備ヘタルモノハ救命艇トナスヲ得ス但木製ノ救命艇ハ艇
 製又ハ鐵製空氣函ヲ使用セシムヘシ一平方呎ノ重キ銅板ハ十八「オンス」鐵板ハ二十一「
 オンス」ヨリ少ナキモノヲ使用セシムヘカラス

四 空氣函ハ船首船尾又ハ兩側ニ設置シ其覆板ハ銅若クハ眞鍮製ノ螺釘ニテ取付ケ検査ニ便
 ナラシムヘシ

五 救命艇ノ周圍ニハ救命綱ヲ備ヘシムヘシ

第八十一條 端艇ニハ屬具ヲ完備セシメ少ナクトモ豫備ノ槳及槳架二箇、放水口ノ栓、淫拘、
 鈎竿各一箇ヲ備ヘシムヘシ但救命艇ニハ羅針盤及水箱各一箇以上ヲ備ヘシムヘシ

第八十二條 前表ニ掲クル端艇ニハ總テ揚卸自在ナル端艇鈎具ヲ備ヘシムヘシ

第八十三條 每船救命浮子(二十四時間三十二磅以上ノ浮力アルモノ)二箇以上ヲ備ヘ又旅客百
 人以上ヲ搭載スル汽船及外國航通旅客船ニハ四箇以上ヲ備ヘシムヘシ

第八十四條 內國航船ニ於テハ十二箇以上上等旅客定員數、外國航船ニ於テハ二十四箇以上上
 等旅客定員數ニ等シキ救命浮帶(二十四時間十五磅以上ノ浮力アルモノ)ヲ備ヘシムヘシ

第八十五條 端艇ノ容積五十立方尺未滿ノモノハ表中ノ容積ニ加ヘサルモノトス

第八十六條 前表一千噸以下ノ船ニ於テハ其端艇中一箇ハ日本形傳馬船ヲ代用セシムルコトヲ
 得

其容積ハ外部ニ於テ長、幅ヲ測リ又内部ニ於テ深ヲ測リ其相乘數ニ十分ノ七ヲ乘シタルモノ
 トス

第八十七條 平水航船及近海航船ニシテ前表八十噸以下ノ船ハ端艇ノ代用ニ百五十噸以下ノ
 船舶ハ其端艇中一箇ノ代用ニ又ハ端艇ヲ備フルモ其艇積不充分ナルモノハ其補足トシテ救命
 浮子若クハ浮帶ヲ用フルヲ許スコトヲ得其標準ハ端艇ノ容積十五立方尺毎ニ浮子若クハ浮帶
 二箇以上トス

第八十八條 前表二百噸以下ノ船舶ニ於テハ表中ノ容積ヲ有スル端艇一箇ヲ以テ二箇ニ代用セ
 シムルコトヲ得

第八十九條 帆船及旅客ヲ搭載セサル汽船ニ於テハ乗組員一人ニ對シ十立方尺ノ割合ヲ以テ端
 艇ヲ備ヘシムヘシ但一箇ハ中鎗ヲ載セ得ヘキモノタルヘシ

第九十條 旅客室ハ正甲板上及其直下ノ甲板上ニ於テ風波ニ觸レズ機關室ニ接近シテ甚シキ温
 度ヲ受ケズ且塵埃臭氣ニ觸レズ旅客ノ起臥動作ニ安全ナル場所ヲ以テ之ニ宛テ旅客室ニハ天
 氣ノ如何ニ拘ハラズ充分ノ光明ヲ通シ且空氣ヲ流通スル爲メ天窗及空氣筒ヲ設ケシムヘシ

第九十一條 甲板間ノ距離外國航船ニ於テハ六尺以上内海航船ニ於テハ五尺以上近海航船及平
 水航船ニ於テハ四尺五寸以上ナルニアラザレハ旅客室トナスヘカラス但船尾ノ如キ斜曲ノ場
 所ニ腰掛様ノ平棚ヲ設ケ其上面ヨリ甲板裏面迄ノ高サ三尺五寸以上ノ場所ハ客席ト爲スコト
 ヲ得

第九十二條 甲板上旅客室ノ高サハ外國航船ニ於テハ六尺以上内國航船ニ於テハ四尺五寸以上
 近海航船ニ於テハ三尺五寸以上トス

第九十三條 旅客室ノ高サ外國航船ニ於テハ六尺五寸以上其他ノ船舶ニ於テハ六尺以上ナルニ

第九十四條 アヲサレハ客席ヲ二層ニナサシムヘカラス
總テ客席ニハ甲板上ニ相當ノ敷板又ハ棚ヲ設ケ寢處其他客ノ坐臥ニ堪ユヘキ敷物
ヲ敷カシムヘシ

第九十五條 雜居客席ハ其一邊ノミヨリ出入スヘキモノコシテ其奥行十二尺以上ナルトキハ其
出入口ヨリ該室ヲ貫キ幅一尺八寸以上ノ通路ヲ設ケシムヘシ若シ其通路ヲ設ケサルモノハ通
路トシテ全面積ノ六分一ヲ除去スヘシ

第九十六條 左ニ掲載スル場所ハ客室ニ算入スヘカラス
外車漁船ノ車覆、船首隔壁(隔壁ナキ船ニ於テハ正甲板面ニ於テ船首材ノ内面ヨリ最大船幅
二分ノ一ノ長ニ達スル迄ノ場所)ノ前方、汽鐘室隔壁一重張ナルトキハ之ヨリ一尺迄ノ場所、
便所ノ前四尺迄ノ場所、瀛欄瀛欄室ノ兩側一尺八寸迄ノ場所

第九十七條 左ニ掲載スル場所ハ客席ニ算入スヘカラス

船口ノ上面、載貨門ノ前後各一尺二寸ノ處ヨリ其幅ニテ船口ニ達スル迄ノ場所、船口ノ前後
一尺八寸迄ノ場所、階子ノ下及前ニ於テ其幅ノ平方面積幅二尺八寸未滿ノ場所、出入口ノ内
四平方尺ノ場所、中甲板ニ載貨門ヲ設ケサル船ニ於テハ其船口ノ周圍一尺八寸迄ノ場所但近
海航船又ハ平水航船ニシテ途中寄港セス仕出港ヨリ仕向港ヘ直航スルモノ及河川ヲ限リ航通
スルモノハ船口ノ上面及其前後兩側ヲ客席トナスコトヲ得

船口ヨリ載貨門ニ至ル除去面積ヲ算スルニ當リ船口ト載貨門ノ位置並列セサルトキハ載貨門
ノ中央ヨリ船口ノ中央ニ至ル距離ト載貨門ノ幅ニ二尺四寸ヲ加ヘタルモノトナ相乘シ其積ヲ

除去面積トナスヘシ

第九十八條 甲板間雜居客室ノ容積ハ機關室ノ前後ニ分チ每室其前中後ノ三箇所ニ於テ上中下
ノ幅ヲ測リ前後上下ノ幅ト前後ノ中幅及中央上下ノ幅各四倍ト中央ノ中幅十六倍トナ加ヘ之
ヲ三十六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長サヲ乘シ總面積トシ之ヨリ其室内ニ於ケル蔽圍ノ場所
及第九十六條ニ依リ除去スヘキ場所ノ平均幅ニ長サヲ乘シタルモノヲ減シ其残り面積ニ平均ノ
高ヲ乘シタルモノトス

機關室ノ兩側其他或ル一部ニ於ケル旅客室ノ容積ハ平均ノ幅ニ長、高ヲ乘シ若シ其室ニ蔽圍
ノ場所アルトキハ其長、幅、高ヲ乘シタル積ヲ減シタルモノトス

船尾圓形斜面ナル所ノ容積ヲ算スルニハ其長サ(矢)幅(弦)ノ二分ノ一以下ノ所迄ハ第一項若
クハ第二項ニ依テ算出シ其後部ハ高サノ中央ニ於ケル長サヲ測リ其三分ノ二ニ其場所ノ最大
幅ト高トナ乘シ其容積トスヘシ

第九十九條 雜居旅客室ノ面積ハ機關室ノ前後ニ分チ每室甲板又ハ棚ノ上面ニ於テ前中後三箇
所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ニ中央ノ幅四倍ヲ加ヘ之ヲ六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長サヲ乘シ總
面積トシ之ヨリ第九十六條及第九十七條ニ掲ケタル除去スヘキ場合ノ面積ヲ減シタルモノト
ス

機關室ノ兩側及其他或ル一部ノ客席ハ平均ノ幅ニ長サヲ乘シ前項ニ準シ通路等ノ面積ヲ減シ
タルモノトス

船尾圓形ナル場所ノ面積ヲ算スルニハ其長サ(矢)幅(弦)ノ二分ノ一以下ノ所迄ハ第一項若

六第二項ニ依テ算出シ其後部ハ長ノ三分二ニ幅ヲ乗シタルモノトス
 第百條 旅客定員ヲ算出スルニハ第九十八條ニ依リ算出シタル旅客室容積及第九十九條ニ依リ算出シタル旅客室實面積ヲ船舶ノ航路定限及客室ノ等級ニ應シ検査細則第十一條規定ノ旅客一人分最少容積及面積ヲ以テ除シ其容積ト面積トニ依テ算出シタル員數ヲ比較シ其少數ヲ以テ該室ノ旅客定員トナスヘシ

第百一條 旅客ノ大便所ハ旅客及乗組員總人員五十人ニ付キ少クモ一箇ノ割合ヲ以テ之ヲ設ケシメ上等室用及乗組員用ヲ區別シタルトキハ乗組員及上等客室定員ヲ除キタル人員ニ對シテ設ケシム可シ

第百二條 旅客船ノ舷牆及柵欄ハ外國航船及內國航船ニ於テハ三尺以上近海航船及平水航船ニ於テハ二尺五寸以上検査官吏ノ允當ト認ムル高サヲ有シ總テ柵欄ノ下ニ二本以上ノ橫材ヲ通サシムヘシ

第百三條 賄所及食器ハ旅客定員及乗組員數航路定限ニ對シ相等ノ準備ヲナサシムヘシ
 第百四條 飲水箱ハ旅客定員及乗組員數ヲ合セ一人一日ニ少クモ二升以上ノ割合ヲ以テ平水航船ハ二日、近海航船ハ三日帆船ハ十日、內國航船ハ十日帆船ハ三十日、外國航船ハ三十日帆船ハ三箇月分ヨリ少ナカラサル飲水ヲ貯藏スルニ足ルヘキモノヲ備ヘシムヘシ但蒸溜器アルモノハ其器ノ如何ニ依リ又平水航船ニシテ前記ノ水量ヲ貯藏スル必要ナシト認ムルモノハ右飲水箱ノ容積ヲ遞減スルモ妨ケナシ

第百五條 旅客室ヨリ甲板ニ昇降スヘキ階子ハ該室旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅一尺八寸以上ノモノ少クモ一箇五十人以上百人未滿ハ幅三尺以上ノモノ少クモ一箇若クハ幅一尺八寸以上ノモノ少クモ三箇百人以上ノ右割合ヲ以テ設ケシムヘシ但噸リ階子及勾配高ク段面廣クシテ柵欄ニ依リ昇降シ難キモノハ其幅三分ノ二ヲ以テ前記ノ割合ニ適合セシムルモノトス

第百六條 乗組水火夫等ノ常用室ハ其船ノ航路定限ニ應スル下等旅客室ニ準シ之ヲ設ケシムヘシ但水火夫等ノ常用室ハ之ヲ船首隔壁前ニ設ケシメ又近海航船若クハ平水航船ニシテ其航路定限往復豫定時間二十四時間以内ノモノハ乗組員數二分ノ一ニ對スル迄室積ヲ減シ又十二時間以内ノモノハ尙ホ之ヲ遞減スルコトヲ得

第百七條 別種旅客室ハ內國航行ノトキニ限リ艙内ニモ之ヲ設ケシムルモ妨ケナシ然レトモ荒天ノ時其艙内ヲ密閉スルノ必要アル船舶ニ於テハ之ヲ許ス可カラス
 第百八條 艙内ニ別種旅客室ヲ設クルトキハ甲板下面ヨリ少クモ五尺下ノ所ニ於テ梁若クハ爲メニ設ケタル床梁及ハ貨物若クハ壓船物ノ上ニ板及礎等ヲ敷カシムヘシ但乾燥セサル貨物又ハ衛生ニ有害ナル貨物等ノ上ハ客席トナサシムヘカラス

第百九條 艙内ニ別種旅客室ヲ設クルトキハ汽罐室隔壁ヨリ五尺迄ノ場所ハ客席ノ面積ニ算入ス可カラス然レトモ其所ニ於テ上甲板ニ通スル空氣筒若クハ艙口ノ設ケアルトキハ通常旅客室ニ準シ客席ニ算入スルヲ得

第百十條 艙内ニ於テ別種旅客室ヲ設クルトキ其艙口一箇所ノヨリ別ニ空氣筒等ノ設ケナク空氣ノ流通不充分ト認ムルトキハ検査官吏ノ見込ニ依リ衛生上適當ノ場所ヲ限リ客席ト

ナスヘシ

第百十一條 船内別種旅客室ノ測度方法ハ通常旅客室ノ測度方法ニ同シ
第百十二條 通常旅客室ヲ別種旅客室トナシ仕出港ヨリ仕向港ニ直航シ途中ニ於テ寄港セザル
トキハ船口ノ上面及載貨門ノ内側ヲ面積ニ算入スルコトヲ得然レトモ其船口下ニ於テモ別種
旅客室ヲ設ケタルトキハ載貨門内側ノ面積ニ算入スヘシ

外國航船ニシテ船内ノ船梁上ニ甲板ヲ假設シ荷船ト其區域ヲ別ニシ且ツ旅客ノ搭載ニ適合ノ
準備ヲ爲シタルトキハ外國航行ノトキト雖トモ之ヲ別種旅客室トナサシムルモ妨ケナシ
第百十三條 別種旅客ニ對スル階子、賄室、食器、飲水箱、便所等ハ總テ通常旅客ニ關スル規
定ニ準スヘシ

第百十四條 高サ三尺以上ノ閉塞舷牆ヲ有シ且ツ完全ノ天幕ヲ備フル船舶ニシテ其航海豫定時
間十二時間以内ナルトキハ最上甲板ニ於テモ相當ノ場所ヲ撰ミ別種旅客ヲ搭載セシムルモ妨
ケナシ
第百十五條 第百十四條ニ據リ最上甲板ニ別種旅客ヲ搭載スルコトヲ許シタルトキハ其場所ノ
形状ニ從ヒ第九十九條ニ依リ其實面積ヲ算出シ之ヲ五ニテ除シ其得數ヲ其定員トナスヘシ

第三章 機關部検査
第二節 検査準備
第百十六條 機關ノ定期検査ヲ執行セントスルトキハ左ノ準備ヲナサシムヘシ
一 汽筒、滑機箱、排氣唧筒、循環唧筒、給水唧筒、汚水唧筒、冷汽器等ノ蓋ヲ取外シ内部
ヲ掃除スルコト又曲拐軸ニ於テ接續部ヲ取外シ軸ニ潤滑油ヲ取除キ置クコト

二 副汽筒、水室等ニ總テ掃除シ又機關豫備品並附屬品ハ適宜ノ場所ニ排列シ置クコト
三 汽罐ハ水ヲ排除シハ孔其他ノ諸孔ヲ開放シ火爐戸及火床ヲ取外シ燃燒室及内部胴板支柱
烟管等ニ附著シタル鏽皮及烟煤ヲ精細ニ取除クコト

第百十七條 特別検査ニ於テハ第一條ニ掲ケタル準備ノ外左ノ準備ヲ爲サシムヘシ
一 螺旋軸ヲ拔取リ推進器ヲ取外スコト又蒸汽管等ノ保温劑ヲ取除キ或ハ現場ニ於テ検査シ
難キモノハ該部分ヲ取外スコト
二 汽罐底部等ニテ検査シ能ハサル時ハ鐵盤ヲ引上ケルコト又罐内部ノ「セメント」或ハ外部
ノ保温劑ハ悉皆取除クコト
三 汽機汽罐附屬ノ諸瓣等ヲ開放シ又諸蒸汽及水管ハ精細ニ検査シ得ヘキ様裝置セシムルコト

第二節 検査要項

第百十八條 機關部ニ於テ検査スヘキ要部及要具ハ概テ左ノ如シ

- 汽機部
汽筒、吸鑄、吸鑄錘、接續錘、滑機錘、隔心錘、螺旋軸、船尾管、排氣唧筒、循環唧筒、給
水唧筒、汚水唧筒、冷汽器、諸管瓣、嘴子、汽笛、サイレン、柁取汽機、推進器
汽罐部
鐵板、支柱、烟管、鐵胴接合部、加熱器、副汽罐、汽壓汽罐、安全瓣、驗汽器、蒸溜器

●西洋形船舶検査手帳

器具

本手續第四百十三條ニ掲クル附屬品類

第三節 各部検査

第百十九條 汽筒ハ内外共ニ精細ニ検査シ若シ内部ニ裂罅等ノ箇所アルトキハ孔ヲ鑿ミ其深淺ヲ測リ又ハ水壓試験ヲ行ヒ其適否ヲ検査スヘシ

第百二十條 吸鑄ハ其「シヤンクリング」ヲ取外シ内部竝ニ彈環等ノ良否ヲ檢シ滑澀ハ其擦合等ヲ精細ニ検査スヘシ

第百二十一條 吸鑄錐、接鑄錐、滑澀錐、隔心錐等ハ總テ瑕釁ナク善良ノモノナルヤ否ヤヲ検査シ殊ニ曲拐栓ニ注意シ軸受黃銅ハ取外シ軸ヲ旋轉シテ之ヲ検査シ且検査官吏ノ見込ニヨリ螺旋軸及船尾管ノ検査ヲ要スルトキハ入渠ヲ命ジ之ヲ検査スヘシ

第百二十二條 排汽唧筒、循環唧筒、給水唧筒、汚水唧筒、冷汽器ハ其内部及吸子諸機等ヲ精細ニ検査スヘシ

第百二十三條 汚水唧筒ノ各船ニ通スル諸管泥箱及弁除ハ常ニ支障ナキヤ否ヲ検査スヘシ

第百二十四條 入渠シタル船舶ノ機關ヲ検査スルトキハ水線下ニ備フル瓣及閘子等ヲ注意検査スヘシ

第百二十五條 最大汽壓ハ汽鑪及汽機ノ構造強弱ニ依リ増減スルモノナレハ殊ニ注意シテ各部ヲ検査シ必要ト認ムル場合ニ於テハ鑼板ノ厚サヲ確知スル爲メ孔ヲ穿テ精細ニ之ヲ検査シ構造部ノ算法ニ照シ材料及工事ノ巧拙ニ準シ其壓力ヲ定ムヘシ

第百二十六條 新汽機、汽鑪ヲ検査スル時各部ノ強弱ヲ算定スルハ勿論其材料ヲ確知スル爲メ鑼板及支柱等ニ於テ後條ニ規定スル方法ニ準シ試験ヲ行フヘシ但確實ト認ムル試験成績表アルモノハ試験ヲ執行スルニ及ハス

第百二十七條 汽鑪内部ヲ検査スル時若シ小鑪ニシテ其内部ニ入り難キトキハ烟管支柱等ヲ取除カシメ又ハ人孔狹少ナルカ或ハ其位置不便ナルニ於テハ之ヲ改造セシメ其現狀ヲ檢定シ必要ト認ムルトキハ水壓試験ヲ行フヘシ鑼胴接合等ニ漏出ノ箇所アリテ底部ノ「セメント」或ハ外部ノ保温劑ノ爲メ損所ヲ確知スル能ハサルトキハ之ヲ取除キ精密ニ検査スヘシ

加熱器ハ内外共遺漏ナク巨細ニ検査スヘシ若シ其構造ニヨリ器内ニ入り難キトキハ内部ヲ検査シ得ヘキ裝置ヲナサシムヘシ汽鑪又ハ加熱器ノ内部ニ入ルコトヲ得サルトキハ其趣ヲ報告書ニ記載スヘシ

第百二十八條 新汽鑪ハ最大汽壓ヲ算定シ其二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ行フヘシ

第百二十九條 舊鑪若クハ修繕ヲ加ヘタル汽鑪ハ其工事ノ良否ヲ検査スル爲メ本鑪ノ最大汽壓一倍半迄ノ水壓試験ヲ行フヘシ

第百三十條 汽鑪ノ水壓試験ヲ執行シ不完全ト認ムル箇所アルトキハ之ヲ修理セシメ更ニ水壓試験ヲ行フヘシ

第百三十一條 副蒸鑪及本船附屬汽艇ノ蒸鑪ヲ検査スルハ其附屬品共ニ主鑪ト同一ノ方法ニ據ルヘシ但其安全瓣ハ封鎖スルコトヲ要セス

第百三十二條 驗藻器ハ毎検査必ス其良否ヲ検査スヘシ

第三百三十三條 蒸氣管ニ於テ衰弱若クハ損所アリト認ムルコ於テハ水壓試験ヲ行フハ勿論ナリ
 一 雖モ特別検査ニ於テハ必ズ管ノ保温劑ヲ取除キ最大蒸壓ノ二倍ヨリ少ナカサル水壓試験
 ヲ執行スヘシ

第三百三十四條 蒸氣管「サイレン」及柱取蒸機等ハ實用上差支ナキヤ否ヲ検査スヘシ
 第三百三十五條 蒸溜器ヲ常用スル蒸船ニ於テハ其諸部ヲ取外シテ検査スルノ期ハ検査官吏ノ見
 込ニヨルト雖モ毎一年ニ一回ハ必ズ之ヲ執行スヘシ

第三百三十六條 外國航及内國航ノ蒸船ハ左ノ豫備品並ニ附屬品ヲ備ヘシムヘシ近海航船以下ノ
 船舶ハ検査官吏ノ見込ニヨリ之ヲ定ムヘシ

- 一 接續錘ノ黃銅
- 一 排氣唧筒ノ瓣 （鐵製ナルトキ
金製ナルトキ）
- 一 循環唧筒ノ瓣 （鐵製ナルトキ
金製ナルトキ）
- 一 主軸受ノ螺釘及母螺
- 一 接續錘ノ螺釘及母螺
- 一 吸錫錘ノ螺釘及母螺
- 一 軸錘ノ螺釘及母螺
- 一 吸錫彈環
- 一 給水唧筒瓣及座 （鐵製ナルトキ
金製ナルトキ）
- 一 汚水唧筒瓣及座 （鐵製ナルトキ
金製ナルトキ）

- 一 驗錘器
- 一 烟管
- 一 寒暖計
- 一 螺釘及母螺大小取雜
- 一 冷蒸管
- 一 冷蒸管ノ填匣
- 一 逃出瓣ノ發條
- 一 驗水器ノ硝子
- 一 火床架
- 一 管塞器
- 一 鐵板
- 一 鐵棒
- 一 螺旋切道具
- 一 鐵砧
- 一 萬力
- 一 「ラッチェットプレート」及錐
- 一 銅繩
- 一 滑車及綱

- 一 各種鑪
- 一 管擴器
- 一 安全瓣發條
- 一 機關手道具

- 十二 挺
- 一 挺
- 一 箇 (各鑪ニ付)
- 一 掬

第三百三十七條 特別検査ニ於テハ前數條ニ掲グル手續ヲ執行スルハ勿論定期検査ニ於テ検査セサル汽機、汽罐ノ各部ヲ特ニ細密ニ検査スヘシ

第三百三十八條 特別検査ニ於テハ汽機臺下機關室ヨリ各部へ通スル諸管蒸氣管ナレハ保温劑等ヲ取除キ或ハ現場ニ於テ検査シ難キモノハ該部分ヲ取外サシメ精細ニ検査シ若シ衰弱ノ模様アリト認ムルニ於テハ最大汽壓二倍ヨリ少カラサル水壓試験ヲ行フヘシ

第三百三十九條 特別検査ニ於テハ罐底ニシテ検査シ能ハサルモノハ罐體ヲ引上ケ又ハ底部ニ塗リタル「セメント」或ハ外部ノ保温劑ハ悉皆取除キ精細ニ検査スヘシ

第四百十條 特別検査ニ於テハ汽機、汽罐附屬ノ瓣及閥子、海水ニ通スル瓣及閥子等ハ悉皆取外シ又副汽機及之ト連續スル管等ハ精細ニ検査スヘシ

第四百十一條 新造ノ汽機、汽罐ヲ検査シタルトキハ相當ノ最大汽壓ヲ使用シ得ヘキ證明書ヲ授與スヘシ

第四百十二條 汽機、汽罐ニ於テ其強弱ヲ算定スルハ本手續ニ定ムル算式ニ依ルヘシ且汽筒ハ最大汽壓ノ二倍冷蒸器ハ三十磅聯成汽機ニ於テハ高壓汽筒ハ最大汽壓ノ二倍中壓汽筒ハ最大汽壓ノ一倍中低壓汽筒ハ最大汽壓丈ケノ水壓試験ヲ行フヘシ

第四百十三條 汽機其他ノ水壓試験ハ船舶司檢所備付ノ驗壓原器又ハ船舶司檢所司檢官ノ認可シタル驗壓原器ヲ使用スヘシ

第四百十四條 汽罐ニ用ユル材料ハ軟鋼及鍊鐵ノ二種ニ限ルヘシ

第四百十五條 新舊船ニ拘ハラヌ新製機關ヲ備ヘタルトキハ正給水管及瓣ノ外ニ之ト全ク連續セサル給水装置ヲ備ヘシムヘシ但旅客汽船ニアラサル小汽船ニ在テハ手用唧筒ヲ使用セシムルモ妨ケナシ

第四百十六條 新ニ副汽機ヲ備ヘタル時其廢蒸管ハ必ス甲板上又ハ廢蒸主管ニ導カシメ之ヲ船側ニ導カシムヘカラス且ツ該管排水ノ裝置ヲ充分ナラシムヘシ

第四百十七條 載貨水線以下ハ勿論其近傍ノ諸通孔ニハ容易ニ開閉シ得ヘキ閥子或ハ瓣ヲ付シ且之ニ續ク管ハ運輸中破損スルモ直ニ修繕ヲ加ヘ得ヘキ位置ニ設ケシムヘシ

第四百十八條 船尾管ハ小汽船ト雖モ木製ノモノヲ使用セシムヘカラス

第四百十九條 每罐必ス硝子驗水器一箇、驗水閥子二箇以上ヲ備ヘ又前後ヨリ點火スル汽罐ニハノチ前後ニ備ヘシムヘシ

驗壓器ハ每罐正確ノモノ一箇ヲ備ヘシムヘシ

第四百十條 汽罐ト蒸氣管又ハ汽罐ト蓄蒸筒若クハ加熱器トノ間ニハ必ス蒸氣瓣ヲ備ヘシムヘシ

第五百十一條 汽機、汽罐ノ諸都ニ用ユル鐵材ハ其切斷面積一平方吋毎ニ鍊鐵ナレハ抗張強力六千磅抗壓強力三千磅、鋼ナレハ抗張強力共ニ八千磅ヲ超過スル使用力ヲ受ケシムヘカラス但

切斷面ハ最弱ノ箇所ニ於テ之ヲ測ルヘシ
 支柱ハ鍛合シタルモノヲ使用セシムヘカラス
 第五百五十二條 登簿船ニ屬スル蒸機ニ於テハ必ズ蒸力圖ヲ取ルノ裝置ヲ備ヘシムヘシ
 第五百五十三條 新造蒸機ニシテ製造中船舶司檢所司檢官臨檢セサルモノ即チ監督ヲ受ケサル蒸機ハ司檢官ノ見込ヨリ算式ヨリ得タル最大蒸壓ノ二割以內ヲ減スヘシ
 第五百五十四條 銅管又ハ鍊鐵管ヲ以テ蒸氣管ニ使用スルトキハ蒸機最大蒸壓二倍ノ水壓試驗ヲ行フヘシ又給水管ハ最大蒸壓二割増ノ壓力ニ堪ユヘキモノタルヘシ
 總テ蒸氣管ニハ充分ナル排水ノ裝置ヲナサシムヘシ
 第五百五十五條 蒸機、蒸機製造用ニ供スヘキ材料ハ左ノ試驗ヲ行フヘシ
 軟鋼

- 一 伸張試驗 製造用ニ供スヘキ各鋼板ヨリ長サ十吋幅二吋ノ一片ヲ截リ之ヲ伸張セシムヘシ其伸張割合ハ二割以上ニシテ板縱纖維ノ抗張強力ハ截面一吋平方ニ付二十六噸以上三十噸以下タルヘシ然シテ二十七噸乃至二十八噸ヲ以テ最モ適當ナル強力トス又火爐及然燒室ニ用フルモノハ其抗張強力及伸張割合モ前同斷トス但之ヲ截リ採ルニハ鑿ノ類ヲ以テセス旋盤ヲ以テ鄭重ニ截リ採ルヘシ
- 二 屈曲試驗 火焰ノ感觸ヲ受クル部分ニ用ユル鋼板ハ前記ニ記セル大サノ一片ヲ櫻桃色ニ燒紅セシメテ華氏八十二度ノ水中ニ沈メ其一片ト水ト同度ニ至ルマテ冷却セシメ後之ヲ板ノ厚サノ一倍半以內ノ徑マテ二重ニ屈曲シ破壊セサルモノヲ適當ナルモノトス又續斷ノ如キ

- 火焰ノ感觸ナキ部分ハ熱セシテ同様ノ手續ヲ行フヘシ
- 一 鉸釘試驗 鉸釘ノ抗張強力ハ其截面凡五割以上ノ縮少伸張二割以上ニテ一吋平方ニ二十六噸ヨリ三十噸ヲ限界トス抗剪強力ハ單剪斷ニ於テ二十三噸復剪斷ニ於テハ單剪斷ノ一、七五倍トス而シテ鉸釘ノ屈曲試驗ハ鉸釘材ヲ櫻桃色ニ燒紅セシメテ華氏八十二度ノ水中ニ沈メ其一片ト水ト同度ニ至ル迄冷却セシメ鉸釘ト其屈曲シタル一端トノ距離徑ト同様ニ至ルマテ屈曲セシメ或ハ熱シタル鉸釘ヲ二重ニ屈曲セシメ或ハ熱シタル鉸釘ノ頭ヲ徑ノ二倍半迄ニ平扁ニ打壓セシメ破壊セサルモノヲ適當ナルモノトス
- 一 支柱試驗 鍛合セサル鋼製螺旋支柱ハ長サ十吋ニ於ケル伸張二割以上ニシテ一吋平方方面ニ付抗張強力二十六噸ヨリ三十噸マテノモノハ實際ノ面積一吋平方ニ付八千磅ノ使用力アルモノトス

鍊鐵

- 一 屈曲試驗 鍊鐵板ノ厚サ一吋以下ニシテ一吋平方方面ノ抗張強力ハ其截面ハ一割ヨリ二割ノ縮少ニシテ縱纖維ニ於テ二十噸ヨリ二十三噸伸張割合ハ凡ソ八分ヨリ一割六分ノモノヲ紅燒セシメテ縱纖維ニ於テ百二十五度橫纖維ニ於テ百度ニ屈曲シ破壊セサルモノヲ以テ檢査適合ノモノトナスヘシ
- 一 鉸釘試驗 鍊鐵鉸釘ノ抗張強力ハ二十三噸乃至二十五噸伸張割合二割以上縮少凡ソ四割以上ニシテ單剪斷ノトキ抗剪強力十六噸乃至十八噸復剪斷ニ於テハ單剪斷ノ一、七五倍トス而シテ熱シタル鉸釘ノ頭ヲ徑ノ二倍半迄平扁ニ打壓セシメ或ハ鉸釘脚ヲ少シク平扁ニシ該

部ニ同徑ノ打貫孔ヲ穿テ破損セザルモノヲ適當ナルモノトス
第五百十六條 鋼板ノ歴穿突縁及其他ノ熱シタル部分ハ必ス焼鈍法ヲ執行シタルモノヲ使用セ
シムヘシ

第五百十七條 鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル箇所ニ使用セシムヘカラス
第五百十八條 斜向支柱ノ積ヲ求ムルニハ左ノ式ニ依ルヘシ

$$\frac{Q \times d^2 \times T}{L \times P} \times D \times L$$

「ガゼットステー」ノ面積ハ右ノ式ニヨリ得ル所ノ積ヨリ大ナラシムヘシ

第五百十九條 燃焼室其他平坦ノ箇所ヲ支フル支梁ノ強サヲ求ムルニハ左ノ式ニ依ルヘシ

$$\frac{Q \times d^2 \times T}{L \times P} \times D \times L$$

式中

- L ハ支梁ノ長さ(吋ニテ)
- P ハ支釘ノ心距(吋ニテ)
- D ハ支梁ノ間ノ距離(吋ニテ)
- d ハ中部ニ於テ測ルタル支梁ノ深サ(吋ニテ)
- T ハ中部ニ於テ測ルタル支梁ノ厚サ(吋ニテ)
- Q ハ定數ニシテ左ノ如シ

各支梁ヲ支釘一本ニテ取付ルトキハ 同 六〇〇〇

各支梁ヲ支釘二本又ハ三本ニテ取付ルトキハ 同 九〇〇〇

各支梁ヲ支釘四本又ハ五本ニテ取付ルトキハ 同 一〇〇〇〇

第五百六十條 平板上ノ流壓ヲ求ムルニハ左ノ式ニ依ルヘシ

$$\frac{Q \times T^2}{P^2}$$

式中

- T ハ板ノ厚サ(吋ノ十六分ノ一ニテ)
- P ハ支柱ノ最大心距(吋ニテ)

- 〇ハ
- (一) 螺旋支柱ニテ両端ヲ絞釘状ニシタルトキ

板ノ厚サ吋ノ十六分	九〇
板ノ厚サ吋ノ十六分	一〇〇
板ノ厚サ吋ノ十六分	一一〇
板ノ厚サ吋ノ十六分	一二〇
板ノ厚サ吋ノ十六分	一四〇
板ノ厚サ吋ノ十六分	一六〇
 - (二) 螺旋支柱ノ両端ヲ母螺ニテ締ムルトキ
 - (三) 鐵板ノ内外ヨリ母螺ヲ以テ支柱ノ両端ヲ締ムルトキハ板ノ
 - (四) 第三項ノ取付ニシテ坐金ヲ絞釘ニテ取付其坐金ノ徑ハ支柱心距ノ五分ノ二厚サ

蒸氣燃焼ヲ受クル鐵板ニテ蒸部ナレハ左ノ定數ヨリ二割ヲ減ス然レトモ別ニ鐵板ヲ剛ヘ火ノ
直觸ヲ妨クモノハ減スルニ及ハス

T或ハL状ノ鐵ヲ用ヒテ鐵板ヲ強ムルトキハ検査官吏ノ見込ヲ以テ適宜本條ノ式ニテ算定シタル蒸壓ヨリ増加スルコトヲ得
 前項ノ定數Cハ新鐵又ハ舊鐵ノ多年ヲ經過セサルモノニ適用ス若シ支柱ノ端若クハ母螺等ニ少損アルモ用ニ堪フルモノハ検査官吏ノ見込ヲ以テ適宜減少ヲ爲スコトヲ得
 鐵板鋼ニシテ支柱ヲ固著スルニ母螺ヲ用ユルモノハ右ノ定數ニ二割半ヲ加ヘ母螺ヲ用ヒサルモノハ一割ヲ加フヘシ
 第六十一條 筒形蒸鐵胴板ノ強サハ鐵長ニ並行ノ接合(ロンマチユヲナル、ジョイント)ノ強サヨリ算シ左ノ式ニ依リ之ヲ求ムヘシ
 鍊鐵蒸鐵胴板ノ強サ

$$\text{最大蒸壓(每平方吋磅)} = \frac{Q \times T \times B}{D}$$

式中

- C ハ定數ナリ左表ニ掲ク
- T ハ鐵板ノ厚サ(吋ニテ)
- D ハ鐵筒ノ平均直徑(吋ニテ)
- B ハ左ノ一二三式ノ内其少ナルモノヲ取リテ用フヘシ
- 接合ニ於テ板ノ強サ割合
- (一) $B_1 = \frac{P-d}{P} \times 100$

接合ニ於テ鐵釘ノ強サ割合

(二) $B_2 = \frac{n \times a}{P \times T} \times F$

鐵釘ノ數外列ニ於テ半數ナルトキ鐵釘及板連續ノ強サ割合

(三) $B_3 = \frac{100(P-d)}{P} \times \frac{B^2}{n}$

P ハ鐵釘ノ心距(吋ニテ)

a ハ鐵釘ノ徑(吋ニテ)

n ハ鐵釘ノ切斷面積(平方吋ニテ)

n ハ最大心距ニ於ケル鐵釘ノ數

F ハ 鐵釘ニシテ打貫孔ナルトキ 一〇〇
 鐵釘ニシテ錐孔ナルトキ 九〇

鍊鐵製蒸鐵定數表

接合ノ種類	鐵板厚二分一吋及其以下	鐵板厚二分一吋以上四分三吋以下	鐵板厚四分ノ五吋以上
蒸鐵接合ニシテ打貫孔ナルトキ	一五五	一六五	一七〇
蒸鐵接合ニシテ錐孔ナルトキ	一七〇	一八〇	一九〇
兩鐵板面頭接合ニシテ打貫孔ナルトキ	一七〇	一八〇	一九〇
兩鐵板面頭接合ニシテ錐孔ナルトキ	一八〇	一九〇	二〇〇

鉸釘両刃刀ヲ受ナルトキハ右式ノ a ニ一・七五ヲ乗スヘシ
鋼製蒸餾胴板ノ強サ

$$\text{最大蒸壓(每平方吋磅)} = \frac{0.75(T-2) \times B}{D}$$

式中

D、蒸餾平均ノ直径(吋ニテ)

T、板ノ厚サ(吋ノ十六分ノ一ニテ)

C、縦接合ニ於テ同幅ノ兩覆板ヲ備フルトキ

C、縦接合ニ於テ不同幅ノ兩覆板ヲ備フルトキ

B、左ノ一・二三式ノ内其少ナルモノヲ用フヘシ

接合ニ於テ板ノ強サ割合

(一) $B_1 = \frac{P-d}{P} \times 100$

接合ニ於テ鉸釘ノ強サ割合

(二) $B_2 = \frac{a \times d}{P \times t} \times 100$

鉸釘ノ數外列ニ於テ半數ナルトキ鉸釘及板連續ノ強サ割合

(三) $B_3 = \frac{100(P-2d)}{P} \times \frac{B_2}{a}$

P、鉸釘ノ心距(吋ニテ)

t、板ノ厚サ(吋ニテ)

d、鉸釘ノ徑(吋ニテ)

a、最大心距ニ於ケル鉸釘ノ數

a、鉸釘ノ切斷面積(平方吋ニテ)

F、鋼鉸釘ヲ用ヒタルトキ

鍊鐵鉸釘ヲ用ヒタルトキ

鉸釘両刃刀ヲ受ツルトキハ右式ノ d ニ一・七五ヲ乗スヘシ

鋼板ニ於テハ打貫孔ヲ許サス

第百六十二條 直接火烟ニ觸ル、加熱器ノ胴板ノ如キニ於テハ右定數 C ノ三分ノ二タルヘシ

銅板ニ諸孔ヲ穿ツ爲メ定數ノ幾分ヲ減スヘシ

第百六十三條 覆板ハ必ス鐵板、同質若クハ優等ノ板ヲ用ヒ又其厚サハ單覆板ノ原サヨリ約八

分一厚キモノ同覆板ナレハ其厚サハ鐵板ノ約八分五以上ナラシムヘシ

覆板ハ必ス鐵板ノ線緯ヲ横ニ切放シタルモノヲ使用セシムヘシ

鉸釘ノ直径ハ鐵板ノ厚サヨリ少カルヘカラス又鉸板薄キカ緊頭接合ナルカ或ハ單覆板ヲ以テ

接合セラル、場合ニ於テハ鐵板ノ徑ヲ一層大ナラシムヘシ

第百六十四條 人孔其他ノ孔ハ鐵板ノ厚サヨリ少ナカラサル緣環ヲ用ヒ又鐵胴ニアル楕圓形ノ

孔ハ常ニ短徑ヲ繼ノ長ニ並行ナラシムヘシ

蒸気ノ下ニ在ル胴板ハ支柱或ハ其他ノ方法ヲ以テ強固ナラシムヘシ
第百六十五條 圓形鍊鐵板火爐ノ強サハ左ノ式ニ依ルヘシ

$$\text{最大蒸壓(每平方吋磅)} = \frac{C \times T^2}{(L+1)D}$$

式中

T ハ板ノ厚サ(吋ニテ)

D ハ爐ノ外徑(吋ニテ)

L ハ爐ノ長(呎ニテ)但鐵環ヲ嵌メタル爐ナレハ其環ノ距離

C ハ

九〇〇〇〇

七〇〇〇〇

八〇〇〇〇

爐長ト並行ノ接合部合シテ
ト成ハ板板ナ行ロキ
累頭接合ナルトキハ

右ノ式ニヨリ算定シタル蒸壓後式ヨリ得タルモノニ超過スルトキハ後式ノ算定ヲ用フレモノ

トス

$$\text{最大蒸壓(每平方吋磅)} = \frac{8000 \times T}{D}$$

本條ノ算法ハ新製ニシテ材料良質且ツ精工ノモノニ適用ス故ニ舊爐又ハ製作粗惡若クハ材料
弱質ノモノハ検査官吏ノ見込ニヨリ適宜ノ定數ヲ減少スヘシ若シ火爐鋼板ナルトキハ前記兩
式ノ定數ニ一割ヲ加ナルモノトス

第百六十六條 鑄形火爐ノ蒸壓ヲ定ムルニハ其火爐眞圓形並ニ棧板製ニシテ兩端ニ於ケル平坦

ノ長サ六吋ヨリ多カラス且板ノ厚サ十六分ノ五吋ヨリ少ナカラサルトキハ左ノ算式ニヨリ得
タルモノヨリ超過スヘカラス

(一) 最大蒸壓(每平方吋磅) = $\frac{9000 \times T}{D}$ (鍊鐵板ノ場合)

(二) " " " = $\frac{12500 \times T}{D}$ (鋼板ノ場合)

式中

T ハ板ノ厚サ(吋ニテ)

D ハ平均直徑(吋ニテ)

第百六十七條 管板ノ壓縮力ヲ算定スル式左ノ如シ

(一) 最大蒸壓(每平方吋磅) = $\frac{(D-d)T \times 15000}{W \times D}$ (鍊鐵板ノ場合)

(二) " " " = $\frac{(D-d)T \times 20000}{W \times d}$ (鋼板ノ場合)

式中

D ハ最少水平距離(烟管中心ヨリ中心迄吋ニテ)

d ハ煙管ノ内徑

T ハ管板ノ厚サ(吋ニテ)

W ハ燃燒室ノ最大ノ幅 (管板ノ前部ヨリ燃燒室ノ後部迄或ハ兩旁
口迄距離ニ於テハ管板ヨリ管板迄ノ距離)

第六十八條 精製シタル鍊鐵管ニシテ重疊合ナルモノハ左ノ式ニ依リ其壓力ヲ算定スヘシ
最大蒸壓(毎平方吋磅ニテ) = $\frac{6000 \times T}{D}$

式中

D ハ内徑(吋ニテ)

T ハ厚サ(吋ニテ)

第六十九條 精製シタル銅管ニシテ螺付接合ナルモノハ左ノ式ニ依リ其壓力ヲ算定スヘシ

$$\text{最大蒸壓(毎平方吋磅ニテ)} = \frac{6000(T - \frac{1}{16})}{D}$$

式中

D ハ内徑(吋ニテ)

T ハ厚サ(吋ニテ)

若シ無接合ニシテ徑八吋以下ノ銅管ナル時ハ前式中ノ $\frac{1}{16}$ ニ換ユルニ $\frac{1}{32}$ ナリテスヘシ

第七十條 總テ蒸船ハ毎罐少ナクトモ二箇ノ安全瓣ヲ備ヘシメ左表ニ從テ製造シタルモノハ
一箇ヲ封鎖スヘシ若シ一箇ノ瓣ノ面積左表ノ割合ヨリ少ナルトキハ一箇以上ヲ封鎖スヘシ副
蒸罐及本船附屬蒸艇ノ蒸罐ニシテ火床面積十四平方呎ヲ超過セサルモノハ安全瓣一箇ヲ備フ
ルヲ以テ足レリトス

第七十一條 發條安全瓣最大蒸壓ノ限度ハ蒸力ヲ以テ之ヲ定ムヘシ而シテ給水機塞蒸弁ヲ閉
チ少ナクトモ二十分間充分ニ噴火シ安全瓣ヨリ蒸氣排出スルニ至リ尙蒸壓ノ昇騰既定ノ最大

蒸壓ノ十分ノ一ヲ超過スルトキハ發條ヲ取遣セシムヘシ

第七十二條 安全瓣鋼製發條ノ大サハ左ノ式ニヨリ求ムルモノトス

$$2\sqrt{SXD}$$

式中

S ハ瓣上ノ總蒸壓(磅ニテ)

D ハ發條螺線ノ直徑 但線ノ中心ヨリ中心迄(吋ニテ)

d ハ角線ナレハ方、圓線ナレハ徑(吋ニテ)

C ハ鋼線ナレハ 一八〇〇〇
角線ナレハ 一〇〇〇〇

第七十三條 安全瓣ハ封鎖シタルモノト或ハ封鎖セサルモノトヲ問ハズ瓣ヲ一時ニ開放シ得
ル揚瓣器ヲ備ヘ蒸機室又ハ蒸罐前ヨリ扱ヒ得可キ裝置ヲナサシムヘシ安全瓣ハ瓣徑ヨリ少カ
ラサル直徑ノ廢氣管ヲ備ヘシメ昇降距離ハ少ナクトモ瓣徑ノ四分ノ一以上タラシムヘシ
瓣箱ノ最寄ノ部分ニ排水管ヲ備ヘシムヘシ

第七十四條 蒸機ノ曲拐軸螺旋軸又中間軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依ルヘシ

一 聯成蒸機 九十度ノ角度ニテ二曲拐ヲ有スルトキ

$$\text{軸徑ノ徑(吋ニテ)} = (.044 + .006D + .02S) \times \sqrt{P}$$

二 聯成蒸機 百二十度ノ角度ニテ三曲拐ヲ有スルトキ

$$\text{軸徑ノ徑(吋ニテ)} = (.0384 + .001B + .002D + .0155S) \times \sqrt{P}$$

- (三) 四聯成蒸機 九十度ノ角度ニテ二母結ヲ有スルヲキ
母結書ノ値(母結) $= (.034A + .011B + .004C + .0014D + .016S) \times V/P$
- (四) 四聯成蒸機 三曲拐ヲ有スルヲキ
母結書ノ値(母結) $= (.028A + .014B + .006C + .0017D + .015S) \times V/P$
- (五) 四聯成蒸機 四曲拐ヲ有スルヲキ
母結書ノ値(母結) $= (.033A + .01B + .004C + .0013D + .0155S) \times V/P$

式中

A ハ高壓蒸筒ノ徑(吋ニテ)
 B ハ第一中壓蒸筒ノ徑(吋ニテ)
 C ハ第二中壓蒸筒ノ徑(吋ニテ)
 D ハ低壓蒸筒ノ徑(吋ニテ)
 S ハ行程ノ長サ(吋ニテ)
 P ハ蒸機ノ壓力(大氣壓以上)平方吋磅ニテ
 螺旋軸ハ曲拐軸ト同徑タルヘシ
 中間軸ハ少ナクトモ曲拐軸徑ノ二十分ノ十九タルヘシ
 右算式ハ聯成蒸機ニ於テハ高壓並ニ低壓蒸筒ノ面積比較四、五ト一ヲ過サルモノ三聯成蒸機ニ於テハ兩蒸筒ノ面積比較九ト一ヲ過サルモノ四聯成蒸機ニ於テハ十二ト一ヲ過サルモノ又蒸機ノ種類ヲ問ハズ行程ハ低壓蒸筒ノ徑ノ二分ノ一ヨリ少ナカラス其徑ヨリ大ナラ

サルモノニ適用ス若シ以上ノ比例外ナルトキハ應分ノ處分ヲ施サシムヘシ
 第一號書式 検査假證書交付ノ場合ニ於テ追書ヲ記載ス

船舶検査報告

船 丸例規ニヨリ第一回検査執行候處別紙件名書之通有之候條検査證書御下附相成度此
 段及報告候也
 年 月 日
 官 氏 名
 官 氏 名

遞信大臣宛

追而本船願出ニヨリ明治 年 月 日ヨリ明治 年 月 日迄之検査假

證書交付致置候

第二號書式(略)

西洋形船舶検査細則 (二十六年十月二十一日遞信省令第十八号)

明治十九年^四當省令第四號西洋形船舶検査細則左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

西洋形船舶検査細則

- 第一條 本則ハ西洋形船舶検査規則ニ據リ検査ヲ受クヘキ船舶ニ適用ス
- 第二條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ直チニ最寄船
船司檢所ニ差出シ検査ヲ受クヘシ但近海航船以下ノ船舶ニシテ其航路定限内ニ船舶司檢所ノ
設置ナキトキハ船籍地方官廳ヲ經由シ其願書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第三條 登簿船免狀ヲ受有メルニ及ハサル汽船ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ船籍地方官廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

第四條 検査官吏ニ於テ船舶航行ニ適當ト認メタルトキハ其旨ヲ遞信省若クハ地方官廳ニ報告スヘシ

遞信省若クハ地方官廳ニ於テハ前項ノ報告ニ據リ第二號書式ノ検査證書ヲ調製シ之ヲ検査出願人ニ附與ス但船舶司檢所ニ於テ検査シタル船舶ノ検査證書ハ其船舶司檢所ヲ經テ附與ス

第五條 第四條ノ検査證書ヲ受領セサル以前ニ於テ船舶ヲ航行ノ用ニ供セントスルトキハ検査官吏ニ検査假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ検査官吏ハ第三號書式ノ検査假證書ヲ調製シ檢査出願人ニ附與ス
検査假證書ノ效用ハ其日附ヨリ起算シ三箇月以内トス但本證書ヲ受領シタルトキハ直チニ返納スヘシ

第六條 検査證書ハ検査規則第十條ニ據リ船内ニ於テ衆人ノ最モ見易キ場所ニ揭示シ旅客船ニ於テハ尙ホ其寫ヲ調製シ各客室ニ揭示スヘシ

第七條 航行シ得ヘキ場所ノ定限ニ據リ船舶ヲ分チテ左ノ四種トス

第一 外國航船 内外國ノ諸港ニ航通シ得ヘキモノ

第二 内國航船 内國各地及朝鮮國南界ノ鴨綠江以北露領黑龍江ニ至ル沿岸竝ニ薩啞島諸港ニ航通シ得ヘキモノ

第三 近海航船 内國沿岸ノ近港間又ハ内地ト離島トノ間ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第四 平水航船 内國水上其他靜穩ノ海上ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第八條 第七條ニ掲ケタル近海航船及平水航船ノ航路定限ハ船體、汽機、汽鐘ノ現状及季節ニ據リ左ノ區域以内ニ於テ検査官吏之ヲ定ム

近海航船航路區域

第一 安房國野島崎ヨリ伊豆國大島及神子元島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内

第二 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國大王崎ニ至ル線内及大王崎ヨリ紀伊國大島沙岬ヲ經テ日ノ岬ニ至ル線内但第三區内ニ連通スルコトヲ得

第三 紀伊國日ノ岬ヨリ阿波國伊島ニ至ル線内伊豫國佐田崎ヨリ豊後國地蔵崎ニ至ル線内及筑前國岩屋崎ヨリ長門國觀音崎ニ至ル線内但第二區又ハ第四區ノ一區内ニ連通スルコトヲ得

第四 豊後國地蔵崎ヨリ伊豫國佐田崎ニ至ル線内及土佐國伊佐崎ヨリ日向國細島ニ至ル線内但第三區内ニ連通スルコトヲ得

第五 土佐國室戸崎ヨリ伊佐岬ニ至ル線内

第六 日向國都井崎ヨリ大隅國種子島屋久島列島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内

第七 薩摩國黑瀬戸ヨリ肥前國五島ヲ經テ平戸海峡ニ至ル線内

第八 出雲國日ノ岬ヨリ總岐列島ヲ經テ伯耆國泊ニ至ル線内

第九 丹後國經々崎ヨリ越前國安島崎ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ加賀國金石迄延長

- 第十 能登國津剛崎ヨリ佐渡ヲ經テ羽後國酒田ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ羽後國船
川迄延長スルコトヲ得
- 第十一 陸前國花淵崎ヨリ金花山ヲ經テ陸中國久慈ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ陸奥
國鮫迄延長スルコトヲ得
- 第十二 陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山岬ヲ經テ膽振國室蘭ニ至ル線内及陸奥國權現崎ヨリ小
島ヲ經テ渡島國江差ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ羽後國土崎若クハ日高國密
雲崎迄延長シ又ハ第十三區ニ連通スルコトヲ得
- 第十三 後志國辨慶岬ヨリ神威崎ヲ經テ小樽灣ニ至ル線内
- 第十四 釧路國釧路ヨリ根室國納沙布岬及野付ヲ經テ知床岬ニ至ル線内及其線内ノ沿岸ヨリ
千島國國後島色丹島間
- 第十五 琉球本島ヨリ沖繩諸群島間
- 平水航路航路區域
- 第一 湖川港内
- 第二 相摸國觀音崎ヨリ上總國富津ニ至ル線内
- 第三 駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内
- 第四 三河國伊夏淵崎ヨリ志摩國菅崎ニ至ル線内
- 第五 紀伊國宮崎ヨリ加大港ニ至ル線内

- 第六 紀伊國苦ヶ島海峽及播磨國明石海峽以内ノ沿岸
- 第七 播磨國室津ヨリ小豆島大角崎ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及讃岐國三崎ヨリ備後國
鞆ニ至ル線内
- 第八 備後國鞆ヨリ伊豫國今治ニ至ル線内及伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島ヲ經テ上ノ關ニ
至ル線内
- 第九 豐前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻
ニ至ル線内
- 第十 筑前國西浦崎ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十一 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内
- 第十二 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内
- 第十三 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内
- 第十四 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内
- 第十五 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内
- 第十六 肥後國天草島牛深港及黒瀬戸以内
- 第十七 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内
- 第十八 出雲國地藏岬ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内
- 第十九 丹後國鷲崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内
- 第二十 越後國立石崎ヨリ初チカ崎ニ至ル線内

- 第二十一 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内
- 第二十二 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内
- 第二十三 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内
- 第二十四 渡島國函館山尾花岬ヨリ葛登支岬ニ至ル線内
- 第二十五 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内
- 第二十六 後志國日和山ヨリ神溪岬ニ至ル線内
- 第二十七 釧路國尻羽崎ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内
- 第九條 近海航路又ハ平水航路ヲ第八條ニ掲ケル航路區域外ニ航行セシメントスルトキハ船主ヨリ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ檢査ヲ受クヘキ船舶ハ其地方官廳)ヲ經由シテ通信省ニ願出ヘシ
- 第十條 左ノ場合ニ於テハ檢査證書ヲ受有セスシテ航行シ又ハ檢査證書ニ記載ノ航路定限及期限ヲ超ヘテ航行スルモ妨ケナシ
 - 第一 船舶司檢所々在地外ノ地ニ於テ製造、修繕若クハ購入シタル船舶檢査ヲ受クル爲メ特ニ船舶司檢所々在地其他檢査ヲ受クヘキ場所マテ航行スルトキ
 - 第二 航路定限内ノ地ニ船舶司檢所ノ設ケナキ場合ニ於テ檢査ヲ受クル爲メ特ニ船舶司檢所々在地其他檢査ヲ受クヘキ場所マテ航行スルトキ
 - 第三 船體若クハ漁機、漁籠其他要部修繕ノ爲メ檢査官吏ノ認可ヲ受ケ工場所在地マテ航行スルトキ

第四 航路定限外ノ地ニ於テ檢査ヲ受ケタル船舶檢査官吏ノ認可ヲ受ケ其航路定限内ノ地マテ航行スルトキ

第十一條 船内旅客ノ定員ハ檢査官吏ニ於テ本船ノ航路定限客室ノ等級及積量ニ據リ左ノ割合ヲ以テ定ム但湖川港内ヲ限リ航通スル渡船ニシテ其渡航時間一時間以内ナルモノハ本條ノ限リニアラス

第一 外國航船

- 上等室 面積十二平方尺
- 中等室 一人五付 面積七十二立方尺
- 下等室 以上

第二 内國航船

但上等室及中等室ハ一人毎ニ一箇以上ノ寢臺ヲ設クヘシ

上等室

外國航船ノ上等室ニ同シ

中等室

一人ニ付 面積十二平方尺 以上

下等室

一人ニ付 面積九平方尺 以上

第三 近海航船

上等室

一人ニ付 面積十二平方尺 以上

中等室

一人ニ付 面積八平方尺 以上

下等室

一人ニ付 面積六平方尺 以上

但航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ豫定時間六時間以内ナル船舶ノ下等室容積ニ限リ三十立方尺迄遞減スルコトヲ得

第四 平水航船

上等室 一人ニ付面積九平方尺以上

中等室 一人ニ付面積六平方尺以上

下等室 一人ニ付面積四、五平方尺以上

第十二條 客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其積量ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第十三條 運航中乗組船員ノ常用室ト客室トハ之ヲ兼用シ若クハ混用スルヲ許サス

第十四條 特別ノ契約ヲ以テ移住民若クハ人夫等多人數ヲ搭載セントスルトキハ更ニ検査ヲ受ケ第十一條ニ據リ算出シタル旅客定員以上ノ人員ヲ搭載スルコトヲ得

第十五條 第十四條ノ検査ハ船舶司檢所所在地ニ於テハ其船舶司檢所其他ノ地方ニ於テハ本船所在地ノ地方官廳ヲ於テ執行ス

前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船主若クハ船長ヨリ第四號書式ノ願書ニ検査証書寫ヲ添ヘ本船所在地ノ船舶司檢所又ハ地方官廳ニ差出スヘシ

第十六條 第十五條ノ場合ニ於テ検査官吏ハ旅客ヲ搭載スヘキ場所及準備ノ適否ヲ検査シ左ノ割合ヲ以テ員數ヲ定メ第五號書式ノ別種旅客室検査証書ヲ附與ス

第一 外國航行 一人ニ付〔面積九平方尺〕〔容積五十五立方尺〕以上

第二 内國航行

航海豫定時間二十四時間以上

一人ニ付〔面積七平方尺〕〔容積四十五立方尺〕以上

航海豫定時間二十四時間未満

一人ニ付〔面積五平方尺〕〔容積三十五立方尺〕以上

第十七條 別種旅客室ト通常旅客室トヲ混用スルヲ許サス

第十八條 別種旅客室検査証書ハ第六條ノ検査証書ト共ニ掲載シ置キ其有効期限經過シタルトキハ直チニ船長ヨリ該証書發出ノ官廳ヘ之ヲ返付スヘシ

第十九條 第一回船舶検査ヲ受ケントスルトキハ船體ヲ入渠若クハ上架スヘシ但製造後一箇年ヲ經過セサル船舶ハ其現狀ニ依リ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ次回検査迄入渠若クハ上架ヲ延期スルコトヲ得

第二十條 第二回以後ノ定期検査ニ於テハ毎回船體ノ入渠若クハ上架ヲナスヲ要セスト雖モ鐵

船鋼船及船底包板ヲ張ラサル木船ニ在テハ少クモ二箇年毎ニ又船底包板ヲ張リタル木船ニ在テハ少クモ五箇年毎ニ一回ハ船體ヲ入渠若クハ上架スヘシ

乘揚衝突等ノ爲メ又ハ船舶ノ現狀ニヨリ検査官吏ニ於テ船體ノ入渠若クハ上架ヲ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ之ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 定期ト臨時トヲ問ハス凡テ船舶ノ検査ヲ受ケントスルトキハ其船主若クハ船長ニ於テ本則ニ定ムル外検査官吏ノ指定ニ從ヒ船體、汽機、蒸罐ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二十二條 定期臨時ニ拘ハラス検査ヲ受クヘキ期限外ニ於テ船舶ヲ入架若クハ上架セントスルトキハ豫メ第六號書式ノ届書ヲ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳ニ差出スヘシ)

第二十三條 検査官吏臨檢スルトキハ船主又ハ船長ヨリ登簿船免狀、検査証書、乗組職員海技免狀、海員雇入証書、備品明細簿及日誌等検査ニ必要ナル書類ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第二十四條 検査執行ノ際検査官吏ニ於テ船舶ノ尺度噸數ニ差違アリト認ムルトキハ之ヲ改測シ遞信省及其船籍地方官廳ヘ報告スヘシ

第二十五條 検査官吏ハ何時クモ航行不適當ト認メタル船舶ノ検査証書ヲ取上クルコトヲ得

第二十六條 検査規則第十一條及第十二條ノ場合其他検査証書ニ記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船主若クハ船長ヨリ証據書類ヲ添ヘ前回検査ヲ受ケタル船舶司檢所又ハ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ遞信省(地方官廳ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳)ニ願出テ証書ノ再授若クハ書換テ受クヘシ

第二十七條 検査規則第十四條ノ場合ニ於テハ其船主ヨリ前回検査ヲ受ケタル船舶司檢所ヘ届出ヘシ

第二十八條 船體若クハ汽機、汽罐其他要部ニ損所ヲ生シ若クハ修繕變更ヲ爲サントスルトキハ船主若クハ船長ヨリ其事由ヲ記載シ仕様書ヲ添ヘ直チニ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ検査

ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳)ニ届出ヘシ

第二十九條 検査証書有効期限内ニ於テ航路制限ヲ變更セントスルトキハ船主ヨリ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳)ニ願出テ更ニ検査ヲ受クヘシ

第三十條 検査証書有効期限内ト雖モ船主ノ都合ニヨリ定期検査ヲ繰上ケ出願スルトコトヲ得

第三十一條 第四條第十六條第二十六條ノ場合ニ於テ検査証書ヲ下付スルトキハ其船主若クハ船長ヨリ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

附則

第三十二條 本則施行以前ニ附與シタル検査証書ハ本則ノ爲メニ其効力ヲ妨ケサル、コトナシ

第一號書式 藻(帆)船何丸第何回御検査願

- 一 船主住所氏名
- 一 登簿噸數
- 一 一定繫場
- 一 航路制限
- 一 船體材料
- 一 公稱馬力
- 一 最大汽壓
- 一 前回検査ノ場所

- 一 現有検査証書有効期限
 - 一 前回本船入渠若クハ上架ノ年月
 - 一 前回汽罐水壓試験年月
 - 一 本船船長技術免狀種類及氏名
 - 一 本船機關長技術免狀種類及氏名
- 右汽(帆)船當時何地ニ碇泊(入渠若クハ上架)中ニテ受檢ノ準備相整居候ニ付何月何日御臨檢相成度此段相願候也

明治 年 月 日

何丸船主若クハ船長

何 某印

現住所

船舶司檢所宛
(地方官廳)

第二號書式

船舶検査証書

船名	船種	主	航路	限定	期有 限効	旅客定員			免狀種類及氏名	免狀 長	船長	機長	船名	地檢 名在
						上等	中等	下等						

右検査ノ上本書期限内記載ノ航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得タルニ依リ西洋形船舶検査規則ニ遵ヒ此証書ヲ附與ス

遼信省印
(地方官廳)

第三號書式

船舶檢査假証書

船名	船主	船種	噸數	航路	定期	旅客定員			有效期間	檢査日期	檢査場所	檢査官	檢査結果
						上等	中等	下等					

右檢査ノ上西洋形船舶檢査細則ニ遵ヒ此檢査假証書ヲ附與ス
但此假証書ハ明治 年 月 日限リ無効タルヘシ

官氏名印
(二名以上ノ檢査ニ係ルトキハ連署スルモノトス)

第四號書式

漢(帆)船何丸別種旅客室御檢査願

- 一 船主住所氏名
- 一 住田地及仕向地
- 一 航行里程
- 一 本船平均速力
- 一 航行豫定日限
- 一 旅客室ニ當ツヘキ場所

右漢(帆)船今般別種旅客搭載航行仕度受檢ノ準備相整居候ニ付何月何日御臨檢相成度本船檢査証書寫相添此段相願候也

明治 年 月 日

何丸船主若クハ船長

何 某印

船船司檢所
(地方官廳)宛

第五號書式

別種旅客室検査証書

船名	船主	航路	定期	證書	有效期間	別種旅客定員	
						内	總
右検査ノ上西洋形船舶検査細則ニ遵ヒ此証書ヲ附與ス							
明治 年 月 日							
検査執行ノ官廳名印							

第六號書式

汽(帆)船何丸入渠(上架)御届

- 一 船主住所氏名
- 一 登簿噸數
- 一 定繫場
- 一 航路定期

- 一 船體材料
- 一 公稱馬力
- 一 最大深壓
- 一 前回検査ノ場所
- 一 現有検査証書有効期限
- 一 前回入渠(上架)年月
- 一 今回入渠(上架)ノ目的
- 一 入渠(上架)豫定月日
- 一 出渠(下架)豫定月日
- 一 前回検査ノ節検査官吏ヨリ入渠修繕命令ノ有無及若シ命令アリハ其事項

右及御届候也

何丸船主若クハ船長

何

某印

現住所

明治 年 月 日

船舶司檢所宛
(地方官廳)

●西洋形船舶長運轉手機關手試験規程

(二十六年八月八日總督令第十五号)

明治十四年 月 日 大政官第一號布達西洋形船舶長運轉手機關手試験規程左ノ通改正シ明治二十六年

年十月一日ヨリ施行ス

●西洋形船舶長運轉手機關手試驗規程

第一條 西洋形船舶長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有セントスル者ハ此規程ニ據リ試驗ヲ受ケヘシ

第二條 試驗ハ船舶司檢所ニ於テ執行ス其定日ハ隨時之ヲ告示ス

試驗定日外ニ於テ臨時試驗ヲ願フトキハ船舶司檢所ノ都合ヲ以テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三條 受験人ハ試驗定日ヨリ三日前述ニ其履歴及品行ニ關スル證明書ヲ添ヘ試驗願書ヲ船舶

司檢所長ヘ差出スヘシ但願書用紙ハ船舶司檢所ニ於テ附與ス

第四條 受験人ハ其族籍氏名、生年月及犯罪ノ有無ニ關シ本籍所管市區町村長ノ證明書ヲ試驗

願書ト共ニ差出スヘシ

受験人外國人ナルトキハ本國領事ヨリ前項ノ證明書ヲ得テ之ヲ差出スヘシ

但受験人既ニ海技免狀ヲ受有シタルモノハ本條ノ限リニアラス

第五條 左ニ記載スル者ハ受験ヲ許サス

一 公權ヲ剝奪セラルタル者

二 公權停止中ノ者

三 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終

ヘサル者

四 瘋癲白痴身體不具若クハ品行不良ニシテ本分ノ職ヲ執ルニ不適當ト認ムル者

五 海技免狀ヲ受有シ其免狀ノ使用ヲ禁止セラレタル者又ハ免狀ノ使用ヲ停止セラレ滿期ニ

至ラサル者

第六條 甲種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ノ各款ニ記載スル履歴ヲ有スル者ニ限ル

二等運轉手

一等運轉手ノ受験人ハ年齢二十年以上ニシテ少クモ四箇年間登簿噸數一百以上ノ西洋形航洋
船ニ在リ其内少クモ一箇年間ハ横帆裝置ノ帆船運航ニ從事セシ者又ハ試驗官吏ノ允當ト認ム
ル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上少クモ三箇年間登簿噸數一百以上ノ西洋形航洋船ニ在リ其
内少クモ一箇年間ハ横帆裝置ノ帆船運航ニ從事セシ者

一等運轉手

一等運轉手ノ受験人ハ年齢二十一年以上ニシテ甲種二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年
間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニ在テ二等運轉手ノ職ヲ執リシ者

船長

船長ノ受験人ハ年齢二十三年以上ニシテ甲種一等運轉手若クハ乙種船長ノ免狀ヲ受有シ少ク
モ一箇年間登簿噸數二百以上ノ航洋船ニ在テ各其免狀相當ノ職ヲ執リシ者

二等機關手

二等機關手ノ受験人ハ年齢二十一年以上ニシテ少クモ四箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋蒸氣船
ニ乗組シ機關運轉ニ從事セシ者又ハ試驗官吏ノ允當ト認ムル學校或ハ機關製造所ニ在テ少ク
モ二箇年間蒸氣機汽罐ノ製造或ハ修繕ニ從事シ尙ホ少クモ二箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋蒸
氣船ニ乗組シ機關運轉ニ從事セシ者

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ年齢二十三年以上ニシテ甲種二等機關手ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年間公稱馬力一百以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關手ノ職ヲ執リシ者又ハ甲種二等機關手若クハ乙種一等機關手ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋汽船ニ在テ機關長ノ職ヲ執リシ者

第七條 乙種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ノ各款ニ記載スル履歴ヲ証明スル者ニ限ル

二等運轉手

二等運轉手ノ受験人ハ年齢二十一年以上ニシテ少クモ五箇年間西洋形航洋船ニ乗組ミ其通航ニ從事シタル者

一等運轉手

一等運轉手ノ受験人ハ年齢二十三年以上ニシテ少クモ五箇年間登簿噸數一百以上ノ西洋形航洋船ニ在リ其通航ニ從事セシ者又ハ乙種二等運轉手ノ免狀ヲ有シ少クモ二箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニ乗組ミ二等運轉手ノ職ヲ執リ若クハ一百未滿ノ航洋船ニ乗組ミ少クモ二箇年間船長ノ職ヲ執リシ者

船長

船長ノ受験人ハ年齢二十五年以上ニシテ乙種一等運轉手ノ免狀ヲ有シ少クモ二箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニ在テ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者又ハ水先人免狀ヲ有シ三箇年以上其營業ヲ爲シタル者

二等機關手

二等機關手ノ受験人ハ年齢二十二年以上ニシテ少クモ五箇年間公稱馬力二十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事セシ者又ハ試験官吏ノ允當ト認ムル機關製造所ニ在テ少クモ二箇年間汽機汽缸ノ製造或ハ修繕ニ從事シ尙ホ少クモ三箇年間公稱馬力二十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事セシ者

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ年齢二十五年以上ニシテ乙種二等機關手ノ免狀ヲ有シ公稱馬力二十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ少クモ二箇年間機關長ノ職ヲ執リシ者

第八條 小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル履歴ヲ有スルモノニ限ル

小形船機關手

小形船機關手ノ受験人ハ年齢二十一年以上ニシテ少クモ三箇年間汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事セシ者

第九條 甲種二等運轉手ノ免狀ヲ有シ登簿噸數五百以上ノ航洋船ニ乗組ミ三等運轉手ノ名義ヲ以テ其職ヲ執リタル者又ハ甲種二等機關手ノ免狀ヲ有シ公稱馬力一百以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ三等機關手ノ名義ヲ以テ其職ヲ執リタル者ハ其在職日數ノ半數ヲ以テ各免狀相當ノ職ヲ執リタル履歴ト見做ストナ得ヘシ

第十條 左ニ掲グル履歴ハ此規程ニ定ムル履歴トシテ採用セス

一 湖川其他平水ノ海上ヲ限リ航通シタル船舶ノ乗組履歴但小形船機關手受験人ノ履歴トシ

テハ此限リニアラス

二 繫留船乘組履歷

三 船舶ノ積量、馬力其他在船年月等不分明ナル履歷

四 船舶ニ乗組ニ又ハ製造所ニ在ルモ其職務運轉手機關手ノ技術ニ關セサル履歷

五 年齡滿十五年以前ニ係ル履歷

六 明治十二年八月以前ニ係ル履歷

第十一條 受験人ノ履歷ハ左ニ記載スル書類ヲ以テ証明スルヲ要ス

一 船舶乘組履歷ハ領事浦役人又ハ該當官吏、公吏ニ於テ公認シタル証明書

二 海軍艦船其他官廳所屬船乘組履歷ハ其官廳若クハ艦船ノ命令書若クハ証明書

三 學校又ハ製造所ニ在リシ履歷ハ其校所授與ノ卒業證書若クハ証明書

四 海技免狀ヲ受有シタルモノハ其免狀

第十二條 試験ハ體格、筆記、口述ノ三ニ分チ順次之ヲ執行ス

第十三條 受験人ハ其試験ノ種類ニ從ヒ左記ノ試験手数料ヲ納ムヘシ

但臨時試験ノ手数料ハ定期試験手数料ノ二倍トス

一 體格試験

二 筆記及口述試験

甲種船長	七十圓
甲種一等運轉手	五十圓

甲種二等運轉手	參圓
甲種一等機關手	七圓
甲種二等機關手	五圓
乙種船長	五圓
乙種一等運轉手	參圓
乙種二等運轉手	貳圓
乙種一等機關手	五圓
乙種二等機關手	參圓
小形船機關手	貳圓

第十四條 既納ノ試験手数料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第十五條 體格試験ニ不合格ナル者ハ筆記及口述ノ試験ヲ受クルヲ得ス筆記試験ニ落第シタル

モノハ口述ノ試験ヲ受クルヲ得ス

筆記及口述試験ノ科目ハ別記ニ據ル

第十六條 筆記試験ニ於テ答ヲ爲スノ時限ハ試験官吏之ヲ定ム其時限迄ニ答ヲ了ラサル者ハ落

第者トス

第十七條 受験人疾病其他ノ事故ニ因リ試験半途ニシテ試験場ヲ退去シ又ハ試験當日ニ至リ出

場セサルトキハ其試験落第者ト見做スヘシ

第十八條 受験人試験場ニ於テ他ノ受験人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ爲シ又ハ之ヲ受ケ其他不

都合ノ所爲アリタルトキハ直ニ退場ヲ命シ試驗落第者ト見做スヘシ

第十九條 受験人試験問題ノ意義或ハ算式ヲ解シ得サルトキ又ハ正當ノ應答ヲ爲シ得サルトキハ落第者トス

第二十條 受験人體格試驗ニ不合格ナルトキハ其落第ノ日ヨリ三箇月以上ヲ經ルコトヲサレハ再ヒ試験ヲ受クルヲ許サス

第二十一條 受験人筆記試験ニ於テ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ三箇月以上ヲ經ルコトヲサレハ更ニ同種免狀ノ試験ヲ受ルヲ許サス

第二十二條 受験人口述ノ試験ニ於テ落第スルコト二回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六箇月以上ヲ經過シ其内少クモ三箇月間ハ實地運航ニ從事セシ証明アルニアラサレハ更ニ同種免狀ノ試験ヲ受ルヲ許サス

第二十三條 左ニ記載スル場合ニ於テモ第二十一條及第二十二條ニ規定シタル期間ヲ經過スルニアラサレハ更ニ試験ヲ受クルヲ許サス

一 乙種船長ノ受験人ニシテ筆記ノ試験ニ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回ニ及ヒタル者
甲種一等運轉手ノ試験ヲ受ケントスルトキ

二 甲種一等運轉手ノ受験人ニシテ口述ノ試験ニ落第スルコト二回ニ及ヒタル者乙種船長ノ試験ヲ受ケントスルトキ

三 乙種運轉手又ハ機關手ノ受験人ニシテ筆記ノ試験ニ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回ニ及ヒタル者甲種二等運轉手又ハ甲種二等機關手ノ試験ヲ受ケントスルトキ

四 乙種二等運轉手ノ受験人ニシテ筆記ノ試験ニ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回或ハ口述ノ試験ニ落第スルコト二回ニ及ヒタル者又ハ小形船機關手ノ受験人ニシテ口述試験ニ落第スルコト二回ニ及ヒタル者乙種一等運轉手又ハ乙種二等機關手ノ試験ヲ受ケントスルトキ

第二十四條 受験人試験ニ及第タルトキハ試験官吏ヨリ直ニ及第證書ヲ本人ニ附與シ其旨遞信大臣ヘ報告スヘシ

官立商船學校全科卒業生ニシテ本規程ニ定ムル受験資格ヲ具ヘ第三條及第四條ニ掲クル證明書ヲ差出ス者ハ試験ヲ須ヒス其履歴相當ノ及第證書ヲ付與スヘシ

第二十五條 受験人試験及第後ニ於テ其履歴ニ詐偽錯誤アリテ受験ノ資格ナキコト又ハ試験ニ不正ノ手段ヲ用ヒタルコトヲ發見スルトキハ其試験ヲ無効ト爲スヘシ

(別記)

試驗科目

甲種

二等運轉手

筆記

- 一 航海運用ニ關スル用語ノ解明
- 二 航海日誌ノ記載
- 三 分數及比例算法

- 四 航海日誌ノ算法
 - 五 緯線航行算法
 - 六 「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ據リ經緯度若クハ針路航程ヲ知ル算法
 - 七 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
 - 八 太陽出沒方位ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
 - 九 潮時ノ算法
 - 十 時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知ル算法
 - 十一 海圖ノ應用
- 口述
- 一 船具ノ取附及取脱
 - 二 桅檣竝ニ帆架ノ揚降
 - 三 帆ノ取扱
 - 四 船舶當時運轉ノ方法
 - 五 測程具及測深具ノ解明竝ニ用法
 - 六 貨物積載法
 - 七 海上衝突豫防法
 - 八 萬國信號法
 - 九 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

一等運轉手

二等運轉手ノ試験科目ヲ合セ

筆記

- 一 太陽方位角ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
 - 二 子午線ニ近キ太陽高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
 - 三 「サムナー」法ニ據リ船舶所在ノ位置太陽ノ方位及方位角ヲ知ル算法
- 口述
- 一 六分儀ノ矯正又用法
 - 二 下檣建設其他圓材ノ取扱
 - 三 錨、錨鎖等ノ取扱及碇泊ノ方法
 - 四 船舶荒天運用ノ方法
 - 五 船舶ノ事變ニ臨ミ之ニ應スルノ處置
 - 六 汽船ノ暗車作用及運轉ノ方法
 - 七 日本沿岸水路ノ標識及地勢
 - 八 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 船長
- 二等運轉手及一等運轉手ノ試験科目ヲ合セ

筆記

- 一 星象高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 二 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三 經度及太陽高度ニ據リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
- 四 羅計自差ノ算法
- 五 「ナビール」自差表調成及用法

口述

- 一 羅針違差ノ解明及測定方法
 - 二 原基羅針据付及矯正ノ方法
 - 三 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
 - 四 颶風ノ解明及避難法
 - 五 船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
 - 六 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 二等機關手
- 筆記
- 一 機關室日誌ノ記載
 - 二 分數、比例及面積求積ノ算法
 - 三 安全瓣、炭費、馬力、支柱、延引力、重量、諸脚筒等ニ關スル算法
- 口述

- 一 汽機、汽鍋検査ノ方法
- 二 汽機、汽鍋各部ノ效用及用法
- 三 汽機、汽鍋組成ノ理解及之ニ屬スル諸器ノ用法
- 四 各種ノ汽機、汽鍋構造ノ解明
- 五 公稱馬力、實馬力及各種推進器ノ解明
- 六 汽機内腐蝕、錆蝕ノ原因及其豫防ノ方法
- 七 車軸、螺旋軸、滑瓣ノ裝置及其位置ノ改正
- 八 汽機、汽鍋ニ生シタル損所ヲ修繕スルノ方法
- 九 運轉中汽機、汽鍋ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
- 十 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

一等機關手

二等機關手ノ試験科目ヲ合セ

筆記

- 一 開平法應用算法
 - 二 螺旋螺巨、燭火面、滑瓣、汽機強弱、膨脹力、速力、發條「インサケートル、ダイヤクラム」等ニ關スル算法
 - 三 汽機、汽鍋局部ノ製圖
- 口述